

平成26年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第3号

平成26年3月3日(月曜日)

議事日程第3号

平成26年3月3日(月曜日)

午前10時00分 開議

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

応招議員 20名

出席議員 20名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	14番	伊井澤一郎君
15番	吉岡静夫君	16番	新保峰孝君
17番	倉又稔君	18番	松尾徹郎君
19番	五十嵐健一郎君	20番	古畑浩一君

欠席議員 0名

説明のため出席した者の職氏名

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

+

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	久保田幸利君
青海事務所長	山岸寿代君	市民課長	竹之内豊君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	岩崎良之君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	会計管理者 会計課長兼務	横田靖彦君
ガス水道局長	小林忠君	消防長	小林強君
教育長	竹田正光君	教育次長 教育委員会こども課長兼務	伊奈晃君
教育委員会こども教育課長	池田修君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	原郁夫君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君	監査委員事務局長	池田正吾君

事務局出席職員

+	局長	小林武夫君	次長	猪又功君	+
	主査	室橋淳次君			

午前10時00分 開議

議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はございません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、4番、吉川慶一議員、13番、田原実議員を指名いたします。

+

## 日程第2．一般質問

議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

2月28日に引き続き、通告順に発言を許します。

渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。〔3番 渡辺重雄君登壇〕

3番（渡辺重雄君）

おはようございます。

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、1回目の質問をさせていただきます。

1、今回は糸魚川市における各種データの収集整理と活用についてであります。

「公共機関は、数値化された膨大な量の情報を保有している。」「この情報を営利・非営利を問わず公開し、自由に利活用することが世界的に進められている。」「これにより、行政の透明性を確保するとともに、新たな民間サービスを生み出す地域経済の発展に寄与する。」

米田市長は、協働組織「チーム糸魚川」発足の必要性の中で、オープンデータに関して、このように説明をされております。

国では、昨年IT政策の立て直しの中で、各種データの収集、見える化、共有、連携、分析を可能にするためには、データの収集や活用のためのシステムや仕組みづくりが必要で、オープンデータが重要なカギを握るとしております。

一方、企業では、2012年、ビッグデータ元年と言われてから2年経過し、実用段階に入ったといわれ、この動きは一気に広がっております。

行政と企業の連携でオープンデータ、ビッグデータを結び具体的活用策を検討し、その活用を推進することで、「市民サービスの向上」「協働のまちづくりの推進」「産業の発展」「経済の活性化」などにつなげたいものです。

そのためには、当市における各種データの収集整理に関し現状を点検し、今後の活用のための仕組みづくりにも備えなければなりません。

「データが通貨になる日」とか「データ時代に対応した人材育成」というタイトルも目にする今日、地域間競争に打ち勝つためにもデータを重視しなければならないと考えます。

このような観点から、主に4項目に関し、糸魚川市における各種データの収集整理と活用について伺います。

(1) 国県の各種統計や「統計いといがわ」の内容と活用についてであります。

多岐の分野でのデータは社会経済を反映しており、分りやすい形で情報発信することで、市民生活での活用も期待できるが、その現状を伺います。また、今日の行政評価時代に対応

した業績の数値化による統計と、その数値を基に業務改善や問題の発見、解決を促進するという二次的利用、活用などにも期待し現状と活用について伺います。

(2) 観光振興に向けた観光統計の整備と活用についてであります。

人口の減少や景気の低迷によって国内の観光消費は伸び悩んでいるが、観光統計に基づく戦略により来訪率や滞在日数、消費の増加につなげている観光地もあります。観光客の観光行動の正確な把握や分析により、何が足りず、何が必要かが明らかになり、効率的な観光戦略にもつながることから、定期的な統計が必要と考えるが、現状と活用について伺います。

(3) 各種統計指標やランキングから見る当市の現状と課題についてであります。

新潟県100の指標では、各市町村の自然・人口から財政まで各ジャンルのデータを順位をつけて公表しているが、この数値から新潟県での糸魚川市の位置付けはどうか。また、ここ5年余りの推移をみて、どのような課題を抱えていると考えているか。ほかに、全国統計ランキングなどでも、いろんな評価があるが、どのように受け止めているか伺います。

(4) オープンデータに関する取り組みについてであります。

オープンデータは機械判読に適したデータ形式で、2次利用が可能な利用ルールで公開されたデータということから、透明性、信頼性の向上、協働の推進、経済の活性化、行政の効率化などが図られるとされており。特に、国がオープンデータ戦略を掲げ推進するというが、糸魚川市として当面どの程度の取り組みを考えているのか伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

おはようございます。

渡辺重雄議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、統計といがわの刊行やホームページでの公表のほか、市の指標等についてもホームページで公表し、市民生活で幅広く活用していただけるよう努めております。

2点目につきましては、主要ジオサイトにおいて観光動向調査を実施いたしております。満足度や旅行消費額、再来訪の意向などを把握、分析し、受け入れ体制の検討の参考といたしております。

また、市全体につきましては、10種類に区分した観光入り込み拠点の統計をとっており、特に、宿泊数は観光の重要な指標としてホームページで公開し、自由に閲覧できるようにいたしております。

3点目につきましては、新潟県100の指標や全国のランキングなどにより、他市町村と比較した位置づけや、過去との比較、推移から、当市の実態や課題が見えてくるものと受けとめております。

4点目につきましては、今年度から機械判読が可能で、2次利用が容易な年齢別人口データや、決算状況などの情報を試験的に公開しております。今後も市内の基礎的な統計情報や地図情報など、できるものから順次、データを公開してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは、1番目の国、県の各種統計、それから統計いといがわの内容と活用について、お伺いをしたいと思います。

まず、国の統計でございますけれども各省庁所管の政府統計、これがあるわけですが、全部でどれぐらいあるものでしょうか。おわかりでしたらお伺ひしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

おはようございます。

統計法が改正されておりますので、新しい統計法に基づく国の、従来は指定統計とっております。現在、基幹統計とっておりますけれども、8省庁で55の調査が行われているということでありま。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、基幹統計が55ということでございますが、ちなみにこの基幹統計、一般市民がこの調査に応じない場合の罰則があるというようなこともお聞きをしておるんですが、この罰則というのは、どんな場合に、どういう罰則があるのか、おわかりでしたら、お伺ひをしたいと思います。

それからまた、今、基幹統計というお話でしたが、一般統計というのものもあるんじゃないかと思うんですが、これはどのぐらいで、どういうものがあるのか、お伺ひをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

統計法における罰則規定でありますけれども、罰則規定がありますけれども、即座に罰則を適用するということではなくて、個人情報関係の法律が整備されたことよって、統計をとる側とすれば、非常にとりづらくなっているという状況があります。通常の場合で適用されるということでありませんけれども、例外的に特殊な事例があれば適用するということが前提だというふうにとめております。

それと基幹統計と一般統計という区分であります。基幹統計のほうは今ほど申し上げましたのは、

国でいえば8省庁にわたっている統計でありますけれども、一般統計のほうは、ちょっと私の手元に資料がありませんので、お答えはできません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

国は行政のための統計というふうなことから、最近では社会の情報基盤としての統計というふうな基本的視点に立って、この増大する統計への要請に応じていくというふうになっているわけですが、特に、この政策の企画立案のために利用されるようになったというふうなことなんですが、それに伴い調査範囲が広がったということなんですが、市として、この国の統計をどのように活用をしているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

国の統計の市における活用ということでありまして。簡単に申し上げるといわけには、いかんこととなりますけれども、統計といがわにも糸魚川市に直接関係するような、あるいはまた市民サイドから、あるいは企業サイドから活用可能という部分で、基本的な情報として国の統計調査も幾つも載せておるわけでありまして。特に市内においては、これらのデータの活用というのが非常に大事になってくるというふうにつえております。

一方、企業サイド、あるいはまた市民サイドも、国の統計等に関係する部分で興味を持っておられる方、あるいはまた仕事上で必要な方が当然おられると思いますので、主要指標にも載せておりますし、市の統計といがわにも掲載をしているというのが、現在の状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

実際には既存の統計ではわからない市民の生活や行動と、こういう状態を把握するにはニーズ調査、あるいは満足度調査、こういうものも併用して行わないと、なかなかつかめないわけですが、その辺、いわゆるニーズ調査、満足度調査、こういうものは市としてどのように実際行っているか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

当市におきましては、各分野で国の統計調査を利用しておりますけれども、それを補完するというような形で市民のアンケート、あるいは調査というものを実施しております。例えば総合計画を

つくるときには、市民アンケートを実施するというような形でっておりますし、そのほか環境の分野、あるいは福祉の分野、それぞれにおいて計画を策定するときに、市民アンケート等をとるというような形で、国の統計を補完する形で市民の状況も調査しながら、計画策定に役立てております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

次に、この市の統計でございますが、統計いといがわ25年度版、これで112ページにわたり、大変細かいデータがびっしり載っておるわけですが、市民にはこの冊子と、市のホームページでも提供してるわけですが、この冊子はどの範囲まで配布をされているものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市内の官公庁を中心に80カ所ぐらいに配布をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

内容を見ますと市内の行政以外の機関でも、いろんな調査、統計をとっておるわけでございますが、この統計いといがわでも資料提供は受けてるわけですが、この活用の実態、いわゆる行政以外の機関での調査、統計、これを行政での活用の実態というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

市役所以外での活用の実態調査ということかと思えますけれども、特に使われているかどうかという実態は、現段階では把握はしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

全国の各市町村の統計要覧、これはホームページ等で提供されておるわけですが、中にはかなりの部分、主な統計は統計図表をやっぱり使って見やすく提供して、皆さんに、市民に、あるいは住民に理解しやすくということを心がけておられるわけですが、本市としましても、全部でなくても主な統計は、やっぱり図表を使って見やすくするという工夫をしていただきたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

確かに他市町村の統計情報、いろんな形のものがあると思っています。当市の場合は長い歴史がありますけれども、いわゆる表だけで一貫しておる統計の冊子になっております。これらについては、今後の課題とさせていただきたいというふうに思っております。

なお、項目については継続性といいましょうか、これまでの推移という面ではやはり一貫したものが必要だというふうに考えておるんですけども、その時代の時々の課題等もありまして、ふえるものがあったり、あるいはまた削除するというようなものもありますけども、基本は一貫性を保ちながら項目を設定している。今ほどの見やすい統計表という部分については、今後の課題とさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

できれば統計数値、統計図表、もっと欲を言えば、できれば考察といえますか解説、これがあれば非常に数字が生きてきますよね。それとやっぱり、そのことによって知りたいという市民の反応、それから、さらに日常お使いになっている職員の方の使いやすさといった面で、非常に効果があるんじゃないかと思うんですが、もう一押し考察と解説、こういう点についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

市民向けに、全てのデータを図表化するというのをとっておりませんが、例えば予算・決算等、市民の皆さんへのお知らせ等は広報紙でグラフとか、それから表とか、それからイラストを含めて、わかりやすく説明しているような状況もございます。市民向けに統計調査をお知らせするときには、コメントをつけたりというものの中にはございます。全てのデータを、なかなか図表を使ってというのができてない現状もあって、先ほど企画財政課長が申し上げましたように、今後の課題の点もございませうけれども、市民の皆さんに、よりわかりやすくというような形でコメントをつけたり、グラフを入れたりというような取り組みをいたしておりますので、今後もそれらの充実に向けて検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それでは、この統計をもとに少し広げてみたいというふうに思うんですが、統計といえば驚きの

数字として、国立人口問題研究所が糸魚川市の人口を2040年に3万2,000人と推計した数字ですよね。これ実際どうなのでしょう。まず、この場合の根拠をどのように捉えておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

企画財政課長（斉藤隆一君）

国の将来推計人口の件でありますけれども、国のほうのデータは非常に細かい条件設定によって算出されているデータであります。この数字が示されたとき、本市としても非常にびっくりするような数字でありましたけれども、本市においても、これまで過去の国勢調査のデータをもとに、本市なりの将来推計人口というものも出してきております。その数字を両者を並べたときに大きく違っているかということ、実はそれほど大きな開きがありませんでした。ということで、市のほうは基本は国勢調査ベースにコーホート推計人口の推計法で、コーホートの手法を用いまして推計しておりますけれども、国は大変複雑な推計方法、計算式を用いて、将来推計人口を計算しているという実態も初めてわかったところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

ちなみに、この2040年、糸魚川市の3万2,000人の推計に対して、上越市は15万6,000人、妙高市は2万2,000人というふうに推計しておりますね。

そこで、この統計の活用ということでございますが、一般的には統計は実態の把握や計画の策定、施策の評価などに利用されているということですが、この場合、この数値をもとに問題の発見、それから解決を促進するという二次的な利用、活用というふうなことになりますと、どんな対策が必要で、どこから手をつければいいのかということなんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

統計にいろんな分野の統計がありますけれども、マクロ的に当市の課題を捉えてみますと、人口減少、それから少子化、高齢化という状況が、人口の統計から非常に読み取れるわけでございます。これが大きな課題だと思っております。したがって、人口の定住促進、それから少子化対策ということでの取り組みを総合計画の中で実施をしながら、予算、各事業の展開に取り組みを進めておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

市長はマニフェストで、この2040年、定住人口4万7,000人ということで数字を挙げたことから、私としては果敢にこの問題と真っ向勝負するというふうにお見受けをしておるんですけども、今までと違った秘策というか、戦略、戦術があつてのことなんでしょうか。また今までと同じであれば、真っ向勝負というようなわけにまいりませんが、市民にわかりやすい新たな展開が欲しいというふうに思うわけなんです、その点をお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これは糸魚川市だけでなく、人口問題研究所が全国を発表したわけでありまして。それに反応した市は、どれくらいあるかというのは私も調べてございませぬが、私はやはり一番危機感を持ち、ちょうど改選期でもあったという、その直前であるわけでございますので、そういった1つの節目みたいな形の中で、どのように捉えていくかということに少し真剣に受けとめさせていただきました。

そういう中で、この3期目に向かって早々に動きましたのは、やはりチーム糸魚川という形で、今までと違う展開をしないと、もうそれはだめでないかなという危機感を持ち、そしてそれに向けて今いるんなものを、どういう方向で進めていくかというところを今取り組んでおるわけございまして、まだそういった1年たたない中で、具体的にどうということにはいってございませぬが、なるべく我々といたしましては、今までも人口減少が続いてるわけでありませぬが、そういった具体的な数字というのは、いろんなところでは見ておるんですけど、このように国の機関が出したということは、やはり我々は強く受けとめ、それに対して今、対応していきたいということで取り組んでおる次第でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

とにかくこの統計によりますと、若年女性人口である20代、30代が減少し続けているわけで、今後もこの状況が続くことが考えられるわけですが、したがって、この人口の再生産力、これが下がり続けると、人口減に歯どめがかからなくなるわけですけども、これはわかり切ってることなんです、大切なのはこの若年層の流出、これをどう食い止めるかという対策も大事になってくるんですけど、この辺については、どんなお考えを持っておられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

この数字の発表前は、じゃあ何もしてなかったかということにはございませぬので、これは押しなべて長きにわたって人口減少、少子化、高齢化に対してどうあるかというのは、いろいろ進めてき

ておるわけですが、やはり国、県、そして各基礎自治体が、やはり一体となった取り組みにもっていかないと、1基礎自治体だけでできるものではないと思っておるわけであります。

ただ、やはりそうは言っても、じゃあ流されていいのかというわけにはいかない中で、我々は努力をしまいつておりますし、また、さらに先ほどのお話にもありましたように、この数字をやはり知り知ることによって、もっと強くその点について取り組まなくてはいけないという今方向で、考えさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この30年持続可能なまちづくり、2040年の4万7,000人、これは何としても実現をさせたい数字なわけですが、私もこの市長の思いと一緒になんですけども、ただ、今期の市長の任期はあと3年ですよね。土台づくりが必要な上に、即また成果も欲しいというふうなことになります。

そのためにはこの定住人口の問題というのは、いわゆる地域の力、チーム系魚川の手法だけでなく、実績を上げるためにも専門家のプログラムも、これはやっぱり併用して必要になってくるんじゃないかなというふうな気がするんですが、その点はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに専門家のやはりアドバイス、また、指導というのが必要になってくるかと思えます。しかし、我々行政は計画的に、今、施策を展開させていただいてるわけですが、そういったものとあわせながらやらなくてはいけない部分もございますし、似たような自治体が結構あるかと思うわけでありますが、しかし、系魚川は系魚川だと思つてるわけですが、系魚川のみずからの問題は、みずからがやっぱり解決するのが必要なんだろうという気持ちの中で、今、取り組まさせていただいておりますし、また、この交流人口拡大にも向けておるわけであります。

やはり定住人口が一番なんですけども、なかなかふえてこない。そういう中において、今、我々が求めてきたのは交流人口拡大をまず先にやりながら、そういった形にもっていきたいわけですが、ちょうど今動き始めておる時期でございますし、計画的に今動いたのに、また違った方向に行くとなってくると、なかなか方向が定まらないものになるんでないかなと。

今、ちょうど合併10年目、北陸新幹線開業というような1つの節目を迎える中で、その点はやはり乗り越えながら、どういう方向にもっていかというのは重要なんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この課題は努力目標ではなく、達成目標でなければならないというふうに私は思うわけなんで、

そうなるとできるだけ数値化をして、担当を明確にして、報告を毎月上げるぐらいの計画にすべきでないかなというふうに思うんですが、そうなりますと、この人口問題の担当課とか担当室、これが必要なんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり行財政改革の中において、今いろんな取り組みをさせてもらっております。その中で今、集中的に取り組まさせていただいておる事業、例えばジオパーク等があるわけございまして、さらにそのほかにプロジェクトの新しい組織というのは非常に難しいんで、現在ある中で、そういったところがあれば、そういった中で取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

とにかく常に意識することが大切ではないかなと。そうしますと、この市長のマニフェストを常に目にするために掲示をしたり、あるいは取り組みの成果を掲示するということなのか、共有するというのでしょうか。こういうふうな1つの共有という点については、どのように考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

選挙以降なんですが、やはり私のマニフェストをしっかり職員に理解してもらえ、また、理解してこの事業に取り組んでもらいたいということで、職員と面接をしながら私の考え方、そして私のマニフェストの説明をしながら、ほぼ100%の職員に直接話をしながら理解をしてもらっております。また、1回ではだめだと思っておりますので何度もやりながら、そして目標、そして数字を明確にしながら、今、進めさせてもらっておるわけでありまして。

スタートしたばかりでございまして、言ってすぐ出てくるとは限りませんので、これは自分たちの職務をどのように見える化、具現化できるかというのも今提案をさせていただいて、進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

国は行政による統計の利用に関して、税金を効率的、効果的に使い、無駄遣いをしないようにす

るための道しるべとなるものですよという言い回しがされとるんですが、行革の観点からも、この統計というのは大いに活用していただきたいというふうに思います。

じゃあ2番目の観光振興に向けた観光統計の整備と活用についてお伺いをしたいと思うんですが、国ではこの平成24年に観光立国推進基本計画、これを策定しまして、観光に関する統計の整備に力を入れてるわけなんです、直接、市にかかわりのある調査、これはあるんでしょうかね、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

おはようございます。

直接、市に関係のある調査ということで、やはり一番大きいのは先ほど市長の答弁でもありました観光入り込み客数の調査というものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、課長がお話のように観光庁がこれ実施をしている観光統計、これは4種類あるということですね。統計法上の一般統計であって、旅行・観光消費動向調査、宿泊旅行統計調査、訪日外国人消費動向調査、観光地域経済調査、この4種類、そのほかに各都道府県が実施している共通基準に基づく観光入込客統計、これがあるというふうに言われております。

この経済調査を除いて、この3つの統計調査は、毎年、四半期ごとに調査、集計、結果、公表がされているというふうなことなんです、かなり活用には効果的だというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに外国人の調査とか、それから修学旅行の調査、それから消費動向ということで調査のほうに来ております。そういったものを取りまとめたものを見る中で、本市としてどのような形で進めればいいのか、そういう検討の参考とさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この国の統計は、最小単位は県という単位で行っているわけですが、このデータということになりますと、このデータをもとに分析をすれば、かなりのヒントが浮かんでくるんじゃないかなとい

うふうに思うんです。

例えば、この中で私、1例ですが感じておるのは、例えば訪日外国人の消費動向、これからは中国の観光客は1回目の訪日の目的は買い物であって主に東京や大都市、いわゆる秋葉原等で電気製品の購入なんかをしているわけですね。観光は頭がないということがうかがえるわけです。ただ、2、3回目からは各地の観光や生活にも興味を持つ。極端なことを言えば、この秋葉原の中国人観光客にチラシを渡したり、同行の旅行業者に営業するというのも、ある意味では次につなげるといふふうにつながっていくんじゃないかなというような気もするんですが、そんなことで、ほかにもヒントはたくさんあると思うんですが、いかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに外国人という形で見れば、そういう取り組みも効果はあると思っております。ただ、当市の場合は外国人よりは、まずは国内観光、そっちのほうに力を入れているのが現状でありますし、当市独自に行っている調査においても、一番大きな特徴としてはリピーターが多いという特徴があります。ただ、逆を返せば新規の旅行客が少ないということですので、やはり新規の旅行客を開拓することによって、今度はリピート率が高くなりますので、そういった相乗的な効果、そういうふうに結びつくんじゃないかと、そういうふうな形のほうに、今、力を入れていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今の外国人の消費動向については1例でございます。このデータの分析という点では、日銀の新潟支店が各種の統計を分析をしておるんですね。新潟県観光の現状と今後の施策に関する考察というようなことで、幾つかの指摘をしておりますので、少し参考していく質問をしたいと思います。

この中で、旅行先でよかったという反応なんですけども、いわゆる満足度の高さですかね、1番が、迷わずたどり着けた。2番を除いて3番が、予定どおりに行動できた。4番を除きまして5番ですが、効率的に回れたと。だから1番、3番、5番が問題なんですけども、特に、県外からの観光客には2次交通の確保、これが重要だというようなことを言っておるんですが、糸魚川市に置きかえてみて、この日銀新潟支店の考察についてどう感じますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに旅行客から見て迷わず行けて、効率的に回れるというのは、非常に重要なことだと思って

おります。ただ、当市のように谷が幾つにも分かれて、交通的に非常にある意味、不便な地域において、どのように観光地を回ってもらうかというのは、非常に重要なこととっております。当市の2次交通としては、街めぐりバスとか駅から観タクン、レンタカー、そういったものを整備しております。定期観光バスについても進めております。こういうものをさらにグレードアップするような形で、2次交通の確保というのを今後も確保していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この点で、もう1点類似しているのは、この市の糸魚川ジオパーク観光動態調査ですね。平成23年、24年、25年、ともに自由意見の欄に不満点ということで、道案内が少ない、看板がわかりにくいといったご意見が続けて3年あったわけなんです。特に、ご自分で車を運転されて来られた方にとっては、先ほど申し上げたように、迷わず、予定どおり、効率的に回れたと、これが満足度になるわけですが、こういうご意見というのは満足度に遠いものがあるわけですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに当市のジオサイトというのは、市内いろんなところにありますし、割と中山間地域が多い。それから中には、かなり歩いて行かないといけないところもあるということで、初めて来た方には、なかなかわかりづらいところもあると思っております。

そういう中で、ぐるり糸魚川みたいなものも開発しておりますし、看板整備、道路案内標識、そういうものも徐々に整備しておりますので、そういう中で、今後の対応も図っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今、お答えもあつたんですが、これを受けて対応するというふうにしたら、実際そうなのかということですね。担当はもとより、一般の方をお願いしてモニターをしていただく必要があるんじゃないか。確認をしなければならんわけですが、そこまでそういう場合、調査結果、データを大切にしているかどうか、これをお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市のいろんな調査ですけれども、先ほど話のありましたジオパーク動態調査、そのほかにも定期観光バスとか、それからはとバス等のツアー、そういったもので実際に来られたお客様から、いろんなご意見を聞いております。特に、はとバスとか定期観光バスについては、期間終了後に関係者が集まって、次のツアーに向けての反省等をしておりますので、そういったお客様の意見、そういうものをいかに次のツアーに反映させるか、そういったことが、非常に重要なのではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

今ほどの質問で、3年続けて自由意見の中に不満が述べられていたと。私、今お聞きしたいのは、実際にそれがどうであったのかという確認、いわゆる調査をした結果、いや、そんなことなかったとか、あるいはそうであったので、早速、こういう整備をしたというような具体的な対応があったら、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ジオパーク動態調査でいきますと、満足度が非常に高いというのも事実でございます。そういう中で課題に対する対応ということでは、やはり看板等の整備というのが、1つには一番重要なことだったのではないかというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

日銀新潟支店の考察に関してもう1点、観光資源に関しては恵まれた資源ということから、食と温泉ではないかというふうに言ってるんですが、いずれも生かし切れてないという中で、食に関してはやっぱり特産品のブランド化、これはやっぱりもうちょっと整備するべきだと。

そしてまたこの温泉について、人気温泉地ランキングのトップ、1位は、まちの雰囲気だと、2位が自然、3位が効能や泉質。いわゆる優先すべきことは、効能や泉質よりも雰囲気のよさということであるというふうに言い切っているんですが、この辺は、どのように捉えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

他市の温泉と比べて当市の温泉が非常に違うというところは、いわゆるまちというか、連たんしていない、個別の温泉がほとんどということだと思います。そういう中で雰囲気づくりということになると、やはりその個々の旅館のおもてなし、それから雰囲気づくり、そういったのが、やはり一番重要になってくるんでないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

日銀のこの考察を真に受けて感じることは、目的地まで迷わずスムーズに行けて、まちの雰囲気がいいというのが一番だというふうに捉えるわけですが、このようなデータの実態を見てみますと、我々はどちらかという、この来訪者のニーズをきちっとつかまないと、極端なことを言うと、あまり要求されていないようなことに、力を使い過ぎているような嫌いもあるわけですが、いわゆるお客様の希望や期待とのギャップですね、これを感じるんですが、皆さん、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は糸魚川は観光に対しては以前から、合併前から、旧糸魚川は観光文化都市というのを標榜しながら進めてきておるわけでありますが、しかし観光にとっては、本当に後進地域だろうと思っております。まだ今現在でも、そういう状況が続いているんだろうと思っております。

そういう中で観光というのは、どうなんだろうというのを我々捉えてみるんですが、日本人の考え方の観光というのは、非常に目まぐるしく変わっていく状況でないかなと思っております。注目を浴びた、そして浴びれば浴びるほど、また落ちるのが早い状況があります。

そういう中で、地域はどのようにしていけばいいのかということ考えたときに、私はやはり持続をしなくちゃいけないだろうということ捉えておるわけでありまして、持続の中で、やはり観光であったり、滞在人口なり、また交流人口をどのようにしていけばいいのかという状況で、今、考えておる中においてはジオパーク活動がいいだろうと。教育を中心にしながら、そして教育観光、また修学旅行だとか、そういったところを中心にしながら学ぶ観光、体験学習、体験旅行というのに、もっていかなくてはいけないだろうと思っております。なかなかそういうのは、一朝一夕にできるわけではございませんので、パンフレットさえつくればいいというものではなくて、受け入れ体制がじゃあどうなのか。その辺が、やはり一番問われるところでございます。

外国の子どもたちも、また、日本の子どもたちも農家民泊もしたいという、農村の原風景を求めておるんですが、それをどのように提供できるかというのは、非常に難しいところでございます。そういったところをしっかりと受け皿をつくりながら、つくっていかなくちゃいけないだろうと、今、考えておるわけでありまして。

ジオパークの中で、その辺をどのように示していけるか。そして今言ったような目標に向かって、今進めていかないと、単にわっと注目して、わっと去られていくというのが、やはり一番怖いわけ

でございます、その辺を単なる観光の評論家の中に、飲まれないようにしていかななくてはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

いよいよ来年の春には新幹線が開業するということですが、この沿線の長野から金沢まで新しい停車駅が7市でできるわけですけども、いずれも観光の戦略を立てておりますね。中身を見ますと、いずれもいろんなデータを駆使しておるんですが、50ページから、多いところでは100ページにも及ぶそういう戦略が見えます。

いずれも力を入れてる点というのは、一般市民にわかりやすいということに力を入れてるようです。市としても、このジオパークの戦略プロジェクト、これを作成しておるわけですが、この市民周知と市民の役割、これらに関してこの戦略の中で、どのような進め方をされているのか、改めてお伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前の質問でもお答えいたしましたが、そのような観点から、一朝一夕にはできないという形で今進めてきて、我々は北陸新幹線開業というのを1つの大きなゴールになったり、到達点という形の中で目標に定めて進めてまいりました。

そのようなことで、ジオパークにいたしましてもかなり前から、そういったことをしながら進めてまいっておるわけでありまして。そして市民の皆様方には、いろいろとお力をいただく中で、サポーターであったり、またアドバイスをいただいたり、そしてまたガイドになっていただいたり進めてきておるわけでありまして、広がりを持っておるんですけども、まだまだ足りないだろう。そしてアドバイザーになっていただいてもいるんですが、もっともっと足りないだろうということの中で、チーム糸魚川の中で一体感を持って進めていかななくてはならないだろうということの中で、市民全体に波及していくような方向で、今、進めさせていただいております。議員、前回のご質問でもいただいた、その点にも及んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

よろしくお伺いをしたいと思います。

先ほどの各7市の戦略を見てもみますと、沿線市の特に感心しますのは上越市、これは行政じゃないんですが、商工会議所の「やろっさ！戦略」、これがありまして69ページ、これが非常に統計を駆使して戦略を立てております。それから飯山市、これは観光消費額を観光地別に1年を4期に

分けて、1年を待たないで細かく統計で公表してるということで、数字が悪いと即、力を入れるというような感じですね。本当に常に数字を見ながら、お互いに競っている、この状況が見えるわけなんです。この糸魚川市の場合ですね、この統計の数字というのは、最短でどれくらいでまとめておりますか。特に観光の場合は、やっぱり早くに数字を見たいわけなんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

観光入り込み客数の調査については、四半期ごとに数字のほうを取りまとめております。そのほかツアー等のアンケート調査については、ツアー終了後、速やかにまとめております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それから新幹線の停車駅ではありませんけども、長野県の白馬村のデータ、これを見ますと外国人の集客ですね、2005年に3万2,500泊、これ人じゃなくて泊ですね。それで2010年に6万5,000泊、そしてこの2015年には10万泊を推計しているということなんです。

そこで、この北アルプス日本海広域観光連携会議のメンバーであるわけですが、この新幹線糸魚川駅の利用といいますか、いわゆるジオパークへの誘導等も含めて何か実現させたいような気もするんですが、その辺の対応はいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

長野県の国際的な観光誘客活動につきましては、非常に力を入れておるわけでありまして。民間、また行政、年に一度は海外へ誘客活動を行っております。そういったところで、今、実績が出ておられるんだろうと思うわけでありまして、我々といたしましても、その辺をもし利用いただけるなら、していきたいと思うんですが、白馬は、やはり富山空港を一番使っておられると思っておりますので、使える可能性は高いものでありますが、しかし、乗りかえというのはあまり数多くやると嫌われる部分があって、恐らく今、富山空港までお迎えに上がっている可能性が高いと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおり白馬の場合は、外国人の宿泊客数では長野市が15%で、白馬が28%確保し

てるということから非常に大きいわけですね。ぜひこの辺のノウハウ、また連携、これをやっぱり活用していただきたいというふうに思います。

それから、次の3番の各種統計資料やランキングから見る当市の現状と課題についてですが、新潟県100の指標ですけども、この中で県内順位をつけて公表していただいておりますが、この指標、いずれも糸魚川らしさということに尽きるんじゃないかとは思いますが、ただ、この中で糸魚川市の強さ、弱さ、これも見えるわけですが、この強さ、弱さということで挙げるとすれば、どの指標になるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

強さ、弱さという部分のご質問でございますけれども、この新潟県の100の指標で、他の市町村と当市の統計数値を比較いたしますと、それぞれの分野で顕著な違いがあるものが幾つかございます。例えば人口分野で見ますと、人口1,000人当たりの人口の流入率、あるいは人口の流出率が他の市町村に比べて低いということは、比較的他の市町村に比べると、人口の出入りが少ないというのが見えてくると思っております。

また一方、高齢者の単身世帯の割合が非常に高いという状況。それから経済・労働分野、あるいは農林水産業の分野で見ますと、2次産業の就業者の割合が他の市町村に比べて高いという状況が見えます。それから農業の分野では、1経営体当たりの経営耕地面積が少ないというような状況が見えてまいります。

ほかの分野でも、幾つかそういう高い、低いという部分が、他の市町村と比べて顕著なものがございまして、そういうところが当市の統計上から見た県内の特徴だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

少し具体的な中身に触れてみたいと思うんですが、福祉・医療項目で、特定健康診査、胃がん、子宮がん健診の受診率が合併当初よりは高くなっているものの、まだ県下では低いというふうに思うわけですね。それから、この悪性新生物の死亡者数が県下では10番くらいで、あまり改善されていないというふうに思うんですが、そうなりますと、この対策の見直しが必要だというふうに考えるんですが、この点はいかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

よろしく申し上げます。

特定健診の実施率につきましては、過去、平成18年ですと27%ということで大変低い数字でございました。その中で平成23年度が40.4%で県内30市町村の中で22位になっておりま

す。その中で特定健診を受けない理由という中では、日常的に忙しいとかいろいろ理由がありますし、ふだんからもう病院へ通う中で検査を受けているということもございまして、昨年からそういう定期的に受けてる方については医療機関からデータをいただいて、受診率向上という形で取り組んでおりまして、平成24年度につきましては、今43%ですか、数字が伸びておりますし、ことしにつきましても、さらに多くの医療機関から情報提供いただいておりますので、その辺については、今、伸ばすような形で努めております。

また3年間、未受診の方については、電話をかけたりしまして訪問をさせていただいて、受診についてお願いをさせていただいて、受診率を伸ばすようにさせていただいております。

また、悪性新生物につきましても平成18年につきましては、やはり県下で5番目という高い数字でございましたが、がん検診等を受けていただく中で、平成23年度につきましては、30市の中で10位という形で、若干ですが順位は改善されております。そういう中では、さらに受診していただくようにという形で努めておりますし、胃がんの受診率等低いものもございまして、そういうものについても捉えていきますし、悪性新生物につきましては、特にその中でも死亡率は胃がんが1番でございましたので、そういうことでは、こういう数字を見ながら、本年度から胃がんのピロリ菌検査、胃がんの原因は主にピロリ菌ということで、ことしから国保人間ドックのピロリ菌検査について無料の検査を実施をしておりますし、それをさらに拡大する中で、そういう死亡率を減らしていきたいということで、この結果を反映させて施策にいろいろ取り入れさせていただきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

逆に、この心疾患死亡率と脳血管疾患死亡率、これは平成23年度のデータでは、数年にわたり上位ランクだったのが下位ランクというふうに改善されておるんですが、これは何か原因があって、改善されたんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

原因といたしましては、やはりいろいろ多くあると思っております。特に、心疾患、脳血管につきましては、血圧等も関係がございまして、そういう中では塩分を抑えるとか食生活の改善とかございまして、あと日常的に運動をやる習慣づける体制と。また、糸魚川総合病院にも、そういう外来棟ができましたし、そのようなことが複合的にかかわって順位が改善したものと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

この100の指標には、それぞれ100の個性、100の事情があるわけなんですけども、いずれにしても公表されてるわけで、新潟県、全国でのランキング、言いかえればレベルというふうにして見られてしまうわけですが、この統計といいがわの冊子では最終ページに小さな活字のデータとして載っておるんですが、私は非常に大切な、重要な数字だと思ってるんです。日ごろこの数字をどのように受けとめて行政運営をされているのか、お伺いをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

統計の数字、他の市町村と比べたりいたしておりますけれども、それぞれの各分野におきまして、当市の社会経済の状況、糸魚川市の姿といわれるものを数値的、客観的に捉えておる重要なツールだと思っております。したがって、それぞれの事業、あるいは施策を展開していく上での基礎的なデータという捉え方でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

少なくとも職員が共有をして、1番でもよい方向にアップするように努めていただきたいというふうに思うわけですが、職員がこの情報の共有という点に関しては、どんなふうに対応していただいとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

特にその辺については、しっかりと皆さんと共有をさせてもらっておりますし、また、それを見ながら今いろんなものに対して、この数字はおかしいじゃないかという形で取り組まさせてもらってますので、十分にそれを使った今、施策展開をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

それでは4番目のオープンデータに関してでありますけども、要は行政情報の電子化ということなんですけども、考えようによっては、この統計といいがわのほとんどのデータというのはエクセル、あるいはCSVというファイル形式にするのが可能だというふうには思うんですが、全国に先駆けて進めることもできるんじゃないかということと、また、福井市ではホームページのほとんどのデー

タが、2次利用できるようになっております。加工なんかについても、市に問い合わせをしないでできるようになっていくというふうに書かれておるんですが、このような取り組み、糸魚川市としてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

行政が大量のデータを所有をしております。そのうち糸魚川市におきましては、今現在、試験的ではございますが、オープンデータの活用支援のプラットフォームというコミュニティーサイトがございます。そこに3件のデータを、今、登録をしたところであります。

今、福井市の話がありましたが、福井県の鯖江市でもかなり先進的に取り組んでおります。そこへも視察をさせていただきまして、糸魚川市がこれから行政データの透明性や公開性、また、市民の社会生活活動に必要なものについて、できるものから順次オープンデータ化をしてみたいと考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

そういうふうに進んでいくものというふうに思うんですが、ただ、市民や各種団体の利活用ということになりますが、最初はそれほど日常的に必要とするものでないだけに、要望としては出てこないかもしれないと思うんですが、ただ、これから市民との協働を進めたいと、特にチーム糸魚川、どうしても市民が行政の職務の分野にもかかわってくる場合が想定されるわけですね。そうすると勢い、やっぱりこのオープンデータの利用というものが必要になってくるというふうに思いますし、また便利になるわけですので、とりあえず、このチーム糸魚川の活動で使えるデータを、オープンデータ化を図っていただきたいなというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

オープンデータ化については、今ほど田原課長が申し上げたような考え方で進めておるところでございますけども、まだまだなじみの薄い分野の話かなというふうに思っております。市民全体の中では、まだなかなか2次化利用するということまで認識が広まっていないというふうに思っております。その辺の皆さんの状況、あるいは様子を皆さんとの対話の中でやりながら、チーム糸魚川の中でも必要なデータについては、今おっしゃられるようなことも含めて、検討してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺議員。

3番（渡辺重雄君）

全国的には、安心・安全、福祉に関する施設に関するデータのオープンデータ化、これを進めている先進地が多いようなんですね。民間の手によって2次的、3次的に活用が期待できると言われておるわけでございますので、むしろ都会に先駆けて開放して、地元の業者などから積極的に活用してもらおうというふうを考えて進めていただきたいことをお願いして、一般質問を終わりにさせていただきます。

どうもありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、渡辺議員の質問は終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて質問いたしますので、よろしく願いいたします。

1、公共施設の予約申し込みシステムと管理について伺います。

市内には多くの公民館、スポーツ施設、文化施設があり、市民に利用され、親しまれています。

改築中の市民会館や新築予定の体育館、公民館など今後数年内に整備される施設も多くあり、その完成が待ち望まれているところでもあります。

これらの公共施設の予約申し込みや確認、空室状況などは現在、電話または直接窓口への申し込み・問い合わせですが、パソコン、スマートフォン、タブレットなどの普及に伴い、新しい施設の開設に合わせ、これらに対応したシステムを導入すべきと思いますので、次の点を伺います。

市民の利便性向上、施設の利用促進を図る上でも重要なことと考えております。

(1) インターネットを活用した予約申し込み及び照会システムの導入について。

(2) 施設の設備、備品に対する市民の要望・意見の対応について。

2、ひすいの里総合学校の通学支援について。

ひすいの里総合学校には市内全域から小中学生が通っておりまして、遠距離の通学には保護者や関係者に負うところが大きく、負担が重くなっております。

昨年の9月に新校舎が完成し、新装された教室で快適な授業を受けられるようになりましたが、通学に対してのより一層の支援が望まれています。考えを伺います。

3、糸魚川版MICE運動の推進について。

MICE（Meeting = 企業等の会議・研修のM、Incentive・Travel = 企業等の行う報奨・招待旅行のI、Convention又はConference = 大会・学会のC、Exhibition又はEvent = 展示会・文化スポーツイベントをあらわす頭文字のE）、これら4つの言葉の頭文字をとったMICEは、一般の観光旅行に比べ多くの集客交流が見

込まれ、参加者の消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れている国や地域が増えているそうです。これまでは、設備や機能が充実していて収容力のある施設を持つ大都会が中心でありましたが、地域の競争力・ブランド力向上につながることから地方にもその動きが広まってまいりました。

昨年、特別委員会で訪れた金沢市も、北陸新幹線開業プロモーションで、リピーター拡大展開強化の中心施策にMICEの推進が図られており我々も刺激を受けてまいりました。また、新潟県内でもMICE運動の取り組みが見られております。

昨年、糸魚川で開催された「日本民俗音楽学会」の大会など良い例だと思いますが、糸魚川ならではのミーティング会場（ユニークベニュー）や体験・研修などを設定し、糸魚川版ともいえるべきMICEの誘致運動を推進してはどうかと思いたしますがいかがでしょうか。

以上、第1回の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、体育施設について利用状況の照会ができるようになっており、予約申し込みについては、関係団体と協議をしております。

2点目につきましては、市民からの要望、意見については、できる限り対応いたしております。

2番目のひすいの里総合学校の通学支援についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いたいいたします。

3番目につきましては、これまでも積極的に誘致に取り組んでまいりましたが、今後ともジオパークブランドを生かして各種会議や大会等の誘致に努めてまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしく願いたいいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

おはようございます。

田中議員のご質問にお答えいたします。

2番目の特別支援学校の通学につきましては、児童生徒の発達や障害の程度により、保護者が送迎を行っている場合がほとんどであります。

通学に要する費用については、新潟県が児童生徒及び保護者等の交通費実費相当額を補助しており、市といたしましては保護者や学校の意見を聞きながら、通学手段の確保等について検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

では、再質問をお願いいたします。

市内には多くの団体がございます。それぞれの目的に沿った活動を展開するために、文化団体は文化協会に、スポーツ団体は体育協会に加盟され、年間の事業計画のもとに施設を利用しているところであります。また、そのほかにもそういった協会、あるいは団体に加盟していない団体、個人、各区の行政、PTAなど、非常に多くの市民が有償、無償、あるいは減免等で利用しております。

そこで、まず現在の公共施設の予約の方法、空き情報などの照会等はどのようになっているのか、大まかに分けてで結構ですので、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

生涯学習課のほうでは公民館、また生涯学習センター、そして体育施設、大きく分けて2つになるんですが、そういったところの施設を管理しておりまして、予約を受けておりますけれども、方法としましては、まず予約される方が、今、全て電話連絡の一元化になっておりますので、電話によりまして、それぞれの利用したいその施設に直接電話をいただきまして、その担当の職員に予約の部屋と、そして時間帯等必要なことを伝えていただく。そして受けた職員が台帳でそれを管理して、空いている、いないというところを回答するというところで受け取っていきます。

それで、その後の作業というのもありまして、体育施設の場合は有料の場合が結構ありますので、一応、使用料については前納ということが建前になっておりますので、その予約をされた方がその施設に来て、本申請と料金をまず納める。納めていただいた方について許可証というのを発行します。受け取った方は、当日、許可証を持ってその施設においでになって施設を使うという流れでやっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

いろんな団体があるわけで、また活動も多様化してきているという中で、今流れを伺いましたけれども、会場や時期によっては利用者が集中して予約がとれない、また空き状況が、そのときすぐにわからないなどということもあるのではないかなと思いますが、その辺の現状はいかがなんでしょうか。また、そういったときの問い合わせや申し込みに対しての他の類似施設の空き情報の把握というのは、すぐにされているのかどうか。また、その際の紹介とか提供はされているのか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

今の予約のルールでありますけれども、公民館の場合は2カ月前の施設を月の初日にできるということで、例えば3月であれば2カ月前ですので5月の1カ月の予定をとれるということで、3月の初日の日に大変電話のお申し込みが殺到します。8時半から受け付けておりますので、そのときには回線のありったけが鳴るというようなことがありまして、大変混雑するということを知っております。

また、今現在ありましたけども、じゃあその施設がとれないということであれば、ほかへの紹介ということ、空きぐあいをはかの施設にどうだというようなお話ですけれども、一応、それぞれの施設がそれぞれを担当しておりますので、ほかの施設についての紹介というのは、多分、できていないというふうに理解しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

恐らくそうじゃないかなと思うわけでございますけれども、現在、その予約システムという受け付け方法において、今もう少し述べられましたけれども、じゃあ改善すべき点というのはあるんじゃないかと思いますが、その辺の問題点というのは、どのように把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

この予約の仕組みについては、もう長い時間をかけてここまできておりますので、今の姿が受ける側、また、予約する側の一番最大公約数で、一応これがベターなんだというものの中でやっているというふうに理解をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

受ける側等を含めて、今のがベターだという答弁なんですけれども、逆に利用者のほうからの要望とか意見というのは寄せられているものでしょうか。もしあるとすれば、その内容というものがわかりましたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

私のところに管理しております施設の中で、特にスポーツの関係ですね、体育施設については、やっぱり利用される方が若い方が多いということで、予約の連絡される方もやっぱり若い方が多いですので、日中は仕事をやっておられる方がやっぱり多いということから、仕事場から連絡を入れたいというのはなかなか難しいと。できれば夕方、ご飯が終わった後、ないしは土曜日、日曜日に予約できないんだろうかというような、そういった要望は、実際にあったというふうに聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

恐らくそうだと思います。私のほうもいろいろと聞いたりもするわけなんですけれども、会議やあるいはイベント、今、課長のほうではスポーツ関係のほうが中心だったようなお話なんですけれども、そういったことを計画しても会場押さえが勤めてる人にとっては不便であったり、また、何度も窓口へ行かなければいけないけども、なかなか行くことができないというふうに聞いております。

また、例えば夜、会議等をしていると。次回の日程を決めるときなんかは夜だから担当者がいないと。じゃあ予定している会場が空いているかどうか分からないということで、日程が決められないという声も私のほうでは聞いております。日時を決めても、また場所は後で連絡するとか、そういった不自由さ、そういったものがあるわけなんですけれども、空室状況だけでもわかれば予定が立てやすくなる、不自由、不便な思いが和らげられるということだと思います。そういった不自由さ、不便さというものを感じているというふうに今受け取ったわけなんですけれども、そういったことでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

そういった不便といいますか、実際、予約される方の状況。今ここで決まったことを、すぐ施設の担当に伝えられないというところ、また確保できないというところの場面というのは想定しておりますので、それに向けた作業というんですか、特にスポーツの場合は体育協会とか、担当のそれぞれの団体がありますので、そういうところとやっぱり協議をしていきたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番(田中立一君)

よろしく申し上げます。

それから手配ミス等の発生でございますけれども、受け付けから使用料の受け渡しから先ほどの流れについて説明をいただきましたが、そういった流れの中で、どうしてもオーバーブッキングだとか、あるいは記帳漏れだとか、あるいは日にち等の記帳ミス、そういったときの対応というのは、どのようにされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長(原 郁夫君)

お答えいたします。

基本的には、そういうことはあってはいけないことでありますので、当然、電話を受けた職員が復唱するなりして確認をすると、そして間違いがないようにしていくというふうに心がけているとは思っております。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

田中議員。

7番(田中立一君)

今言ったような不自由さ、不便さ、あるいはミスのことやなんかは、今回、質問項目に挙げておりますネットに対応しておれば、少なくともこういうことは少なくなるのではないかなということでも聞かせてもらいました。

ネットを使えば、その場で調べられる、あるいは仮予約などもできる体制も整えられるんじゃないかなということでもあります。すなわちインターネットのメリットというのは、登録さえしておけば、いつでも、どこでも、誰でも予約の申し込みとか、情報の入手ができる形になる。飛躍的に利便性の向上が図られるんじゃないかなということでもあります。

例えば、現在は受け付け時、窓口において利用者とのやりとりなんかも、先ほど言われましたように申請書とか、納付書とか、許可証だとか、あるいは収納だとか、そういったものに大変な手間とか労力とか、時間がかかったりするのが実情じゃないかなということで、職員のほうにも少なからぬ手間とか時間がかかって、窓口では利用者を待たせるとか、そういうことがあるんじゃないかなと思いますけれども、システムが導入されれば、それが大幅に緩和されて、職員は予約管理する手間の省力化、そういったことが図られると思いますし、また、市民へのサービスも、向上するんじゃないかなということじゃないかと思います。そういったことの認識というのは、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長(原 郁夫君)

お答えいたします。

今、田中議員がおっしゃったところの利便性の向上というのは、間違いなくあるだろうというふうに考えております。

問題は、月の初日に大量に来るときの電話予約とインターネットの予約の整合性というんでしょうか、スピード感をうまく調整をするというところが解決つけば、非常に便利になるというふうには考えておりますので、そういうところを着目して工夫をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それからデータ管理なんですけれども、今も渡辺議員がいろいろデータのことで質問をされておられましたけれども、こういった施設の利用とか、そういったことに対してのデータ管理というのはどうされてるのかなど。必要に応じて予約の状況や利用状況の確認、あるいは集計、登録された情報によって各種の状況が集計を簡単に、こういったことを使うと出力が可能となるんじゃないかなと思います。現在、その辺の情報収集とか集計、分析、そういったことはされているのでしょうか。また、されているものを反映しているかどうか、そういったことをお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

スポーツの団体のスポーツ施設につきましては、今、予約というんでしょうか、空き状況の画面があって、そちらのほうで登録されて入っておりますので、それを集計して、月の利用団体の数であるとか利用者数、そういったものの統計はとらせていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

スポーツのほうはされているけども、ほかの文化施設等のほうはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

このシステムの活用につきましては、文化施設も内部のデータを処理する上では活用しております。オープンにはしておりませんが、そういう意味では受け付け業務は紙ベースでありますけれども、データはパソコンに入れて内部では管理しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

公民館等とはもかくとしまして、スポーツ施設とか文化施設というのはそういったデータがあれば、今言われたような管理をすれば、年間行事をはじめ活動状況、そういったものが計画を立てやすくなりますし、いろんな形でスポーツの振興、文化振興につながるのではないかなと思いますので、そういったことをされてるということなんですけれども、役立てていただきたいと思いますし、やっぱりこういったことをするには、インターネット等ITの導入は便利ではないかということをお思いますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

パソコンですとかインターネットの持つ特性といいますか、長所を生かしてこういったものに活用すれば、市民の利便性の向上には役立つと思っております。

特に時間外、また夜間ですね、そういったときの予約の申し込み等、そういったものには非常に有効な手段ではないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほど市長からの答弁では、現在、インターネットを活用しての予約や照会できるのは、スポーツ施設のほうでされているというふうに伺いました。

私もホームページのほうから入って見たんですけども、正直、なかなかわかりづらいというのが感想であります。利用者はそれを実際、現状それを活用してるのかどうか、また、私はわかりづらいな、利用しづらいなと感じたんですけども、課題というのはどうなんでしょうか。また、スマートフォンのほうでも、ちょっと僕、試してみたんですけども、そちらには対応していないようなんですけども、その辺のこともあわせてお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

そのシステムを入れることによってこちらのほうでも、特にスポーツの場合は、スポーツの体育協会さんには情報提供しておりますので、私たちの管理しているスポーツの団体のところには、こういうふうに使っていくんですよという情報は流しておりますので、そういう方々はちゃんと見て、

対応してると思っております。スマートフォンについては、私、ちょっとまだ存じておりませんので、申しわけないんですが、よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

スマートフォンのほうは、まだわからないということなんですが、例えば文化施設関係では当市の図書館がありますけれども、図書館のほうも、もうホームページからいろんな本の管理がされてますよね。スマホにもある程度の対応はされているなというふうに見ておるんですけども、できるだけそういった対応のほうもお願いしたいなと思います。

ほかの自治体ではスポーツ施設、文化施設、公民館から図書館まで一元的な予約システムで管理運営されているところが、もう結構ふえておりますので、できれば参考にさせていただければなと思います。

どの施設も限られた人数で、施設の管理を運営されております。先日、市民会館の話が一般質問の初日にもありましたけれども、行革の推進もあったりしまして、職員の数というのは減少傾向にあるわけでございます。一方で、市民の使用形態というのは多様化していますので、利用者もふえているんでないかなと思いますけれども、事務の効率化、簡略化を図る意味でも、ネットの導入は必要だと思います。ただ、ネットをされていない方もおられるわけなので、そういった方への配慮というのは大事ですし、紙媒体というのは、あわせておかなければならないと私は思っているところがございます。

市民会館ですけれども、市民会館は、今、リニューアルしておりますけれども、貸し館や自主公演をよく行っておりまして、ホールや部屋の空き情報、あるいは予約はもちろんなんですけれども、今回のリニューアルに伴ってのホームページのさらなる充実やチケットの販売、そういったもののサービスの向上という点は、どのように考えていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

現在は今、原課長が申し上げましたように紙ベース、また電話での受け付けになっておりますが、現在でも市民会館のきららにつきましては、鑑賞事業のようなチケットで席も必要な場合については、独自の席の予約のシステムを活用しております。ただ、窓口での対応でございますので、今後は、今、議員が言われますようにパソコンやスマホを使った、要は時間と場所を選ばないような方法で、そういうものまでも踏み込んで、できるかどうか研究してまいりたいというふうに思っておりますし、施設の予約システムについては、そういうホールの状況、そういうものもできるようにはしてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしく申し上げます。

もう1点、この予約システムなんですけれども、数年前に市のホームページがリニューアルされました。そのときには、この公共施設がある予約等に対してのオンラインによるシステム等、あるいは管理、そういったものの導入というのは検討されなかったのでしょうか。あるいは検討されたのかどうか、その辺も含めて申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

ホームページを委託している電算会社システムと、施設の予約のシステムと別の体制になっております。施設予約のほうにつきましては22年に契約をして、この間5年間、26年末で一応の期間更新の時期となります。

今ほど質問と答弁のありました件につきましては、市民の利便性を最重点に考えまして、この更新を機会に受け付けの手续、あるいはルール、そういうものをもう一度見直しをしまして、予約システムの更新をしてみたいと思っております。今、ホームページのほうでということですが、ホームページの中に取り入れるよりも、単独のシステムで動いていきたいというのが現状であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくお願いいいたします。

次の2番目の施設の設備や備品に対する市民要望なんですけれども、いろいろと意見を聞いて充実しているという答えだったかと思うんですけれども、今、新築、改築されている施設について、備品や装備、これらの市民ニーズはどのように把握されていくのか、充実に努めていくつもりなのか。今、さっと考えられるのは市民会館、体育館、公民館、それからフォッサマグナミュージアム、そういったものに対するもの、旧施設の現状を踏まえての改善、どのように努めていくのか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

お答えいたします。

それらの施設の大規模な改修であるとか新築については、検討委員会というような関係で、その施設に関係する方々の委員、例えば15人とか20人というような方々で協議をしていきますので、施設、備品については、その協議の中で必要なものを要望いただいて、それを最大限生かしていくというやり方をしています。

また、施設の中につきましては、例えば公民館の中の調理室、そういった部屋につきましては、調理の講習をやってる先生方からも意見を聞きながら、どんなもんが必要なのかということで、個々の対象になっている部屋の関係者からも意見を聞いて、取り組むようにしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

あと備品の故障だとか破損、壊れていて使えないようなものは、それらの対応というのは、どのようにされているかなと思うわけなんですけれども、使用者が使用するときにしっかり伝えてもらう、あるいは、いつごろこれが修理をされて使えるようになるのかとか、そういったことの連絡等はしっかりされているのか、どうかなというところが時々あるわけなんですけれども、その辺の対応はどうされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

原生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 原 郁夫君登壇〕

教育委員会生涯学習課長（原 郁夫君）

備品の故障、破損ということではありますが、これは利用者の方々がすぐ施設のそこの職員に連絡をとって、これが傷んでるということで連絡があると思います。そういうものは、こちらの生涯学習課のほうにも連絡が入りますので、どのように修繕していくか、直していくか、入れかえるかという相談はございます。

また、その品物を故意というのか、重大な過失によって壊したような場合については、その壊した相手がわかっているならば、その方からも弁償していただくような相談をさせていただくということで、その事由によって対応していくというふうにとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

よろしくをお願いします。

では次に、2番目のひすいの里総合学校の通学支援であります。

ほとんど保護者等の負担でやっている。負担といいましょうか、経費のほうは県のほう、あるいはそれなりの実費のほうも支給されているということなんですけれども、まず、全体の通学について伺いますけれども、学校の通学には小学校区、中学校区とあるわけなんです、少子化が進んで統廃合がされて、バス等公共交通機関を利用しなければならない地域もあるわけなんです、現在、糸魚川市立の小・中学生にされている通学支援は、どういう内容のものがあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

小・中学校の通学支援につきましては、小学生では2.5キロ以上、中学生では4キロ以上の児童生徒に対しては、路線バスがあれば路線バスの定期代等を支給しておりますし、地域によっては、スクールバス等を利用して登下校をさせております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

障害がある子どもの通学支援としましては、放課後の支援と通学送迎の支援、それから通学送迎の支援の中には実費の補助とか、そういったものも含まれてくるのかなと思いますけれども、保護者が仕事を終えて迎えに来られるまでの時間、あるいは家庭の事情等に対応した学童クラブ事業だとか、放課後等のデイサービス事業、あるいはタイムケア事業等の放課後支援というのは行われているものなんでしょうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

特別支援学校、具体的にはひすいの里総合学校の児童生徒については、通学については全額、県のほうから出るわけですが、今、お話がありました放課後の、小学校であれば児童クラブに準じたような、そういうものについても支援センターささゆり等で実施をさせてもらっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

ささゆり等でされてるということは、今回、新装になった校舎のほうでの学童クラブ事業だとか、放課後等のデイサービス事業等という対応のつくりになっていないのか、あるいはシステムがそうになっていないのか、いかがなもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

平成26年4月からひすいの里総合学校で、そういった放課後のデイサービスを実施する予定であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

それは小学部、中学部、全部同じということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えいたします。

小・中学部であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

通学の送迎、金銭的な負担は、今、されているということなんですけれども、やはり送迎にかかわる保護者の負担というものが非常に大きくて、このために正規の仕事には、なかなかつけないでいるという話も聞きますし、経済的にも苦労もやはり伴ってくるんじゃないかなと思うんですけれども、スクールバス等の運行というものの検討というのは、されるものなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

池田こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 池田 修君登壇〕

教育委員会こども教育課長（池田 修君）

お答えします。

今、議員ご指摘のように、特別支援学校の通学については、ほとんど保護者の送迎に頼っている状態であります。保護者が働くとかいろんなことで非常に負担を、今、してもらっているというのが現実であります。

子どもの発達段階とか障害の状況とか、あるいは市内全般にわたって通学域があるということで、なかなかスクールバスということについては、今まで検討してきておりません。ただ、今お話があったように非常に負担になっているという現実がありますので、さっき教育長答弁にもありましたように、保護者や学校から実情を聞いて、あるいは基本的には通学にかかる費用は県が負担してしますので、県教委とも相談したり、あるいは市内、特別支援ですので福祉のほうとも相談して、連絡して、今後、適切に対応していく、その検討をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

もう1点、資格が必要らしいんですけどもガイドヘルパー、移動介護従事者ということらしいんですけども、そういった当市においてガイドヘルパーの実態というものはあるものなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

障害福祉サービスの中で、知的に障害をお持ちの方と同行するというサービスがございますが、糸魚川市内でそのように対応できる事業所につきましては、できるヘルパーさんといたしましては二、三人というところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

こういったことに力を入れてる自治体もあるやに聞いております。また検討して、ふやせるものならふやしていく、実情に合わせてやっていただく、そういった検討をお願いしたいなと思いますし。

通学バスなんですけれども、どこかの自治体だったんですけども、バス運転手のOB、そういった人がいる会社に委託して、経費を抑えてサービスをしているところもあるというふうに聞いております。学校におけるPTAの行事だとか、そういったものにも使っているというふうに聞いておりますので、そういったことももし可能ならば、通学支援の1つとして検討してもらえたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

次に、糸魚川版MICE運動の推進についてお伺いをいたします。

新潟県の新幹線活用地域活性化委員会という会がありまして、第6回が1月28日に開かれまして、ホームページ等にもアップされております。その委員の中に日本旅行業協会、JATAと言うらしいんですけども、その委員がおられて言われるには、80年代の職場旅行、慰安旅行は激減して、逆に今ふえているのはMICEとインバウンド、この分野はしっかりやらないといけないと述べております。

糸魚川市のMICEに対する認識、先ほどの市長答弁では、これまでも随分されてきたということなんですけれども、その辺の認識と、じゃあ今までやってこられた誘致運動に、どのようなものがあつたか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

M I C E につきましては、企業、産業活動や、研究学会活動等と関連している場合が非常に多いということで、一般的な観光とは少し性格が違うものというふうに考えておりますけれども、開催における経済効果につきましては、一般の観光客以上に期待できるものというふうに考えております。

そういう中で、本来のM I C Eというのは、どちらかという大きな会議とか国際会議、そういうものに主眼として置いてるわけですが、本市としても機会があれば、そういう会議とか大会、そういうものについては、過去においても積極的に取り組んでいる状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

この後、観光客を誘致することとM I C Eを誘致することの違いということも伺おうかと思ったんですけども、今、少し触れられましたのであれなんですけど、さっきの質問の中で、糸魚川もされているということなんですけども、具体的にどんなことをされてきたのかなということも伺いたいたんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当課に関係のある部分でありますけれども、ことしの6月に県観光協会の総会が開催されることが決定しております。県の観光協会の総会については、本来、上・中・下越ということで持ち回りで、平成26年度が上越地域の番ということで、例年でありまして妙高市が会場なんですけども、今回は糸魚川市のほうに誘致しとりますし、あと平成28年の鉱物学と博物館に関する国際会議、これも誘致に向けて取り組んでおります。

そのほかにも今、ジオパーク関連につきましても全国的な会議のほかに、ある程度ブロック分けした取り組みというのを進めておりますので、26年度については、できれば本市を会場にした講習会、そういったものも検討している最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

特別委員会で訪れた金沢市、こちらのM I C Eの推進を少し紹介させていただきますと、北陸新幹線の開業を見据えてM I C Eの誘致を目的に、2012年に地元業界と連携して、金沢M I C E推進協議会を発足させております。事務所は観光交流課。これまでに金沢でしか体験できないプログ

ラムメニュー、あるいは金沢城内でのテーマパーティー、芸妓さんに学ぶ一流人のふるまいといった研修プログラム、金沢の歴史文化、伝統という金沢ならではの資産、資源を活用したオリジナルMICEメニュー、そういったものも開発しております。我々が特別委員会で市外調査に訪れたときも、富裕層向けのクラフトツーリズムや時代物から現代の有名作家による建築物を楽しむまちなど、ユニークなプログラムを紹介をされました。

また、補助制度というものを創設して、交付対象となる事業や学会等開催には補助金を出して、経費の一部を助成しているということでもあります。

先ほど課長が、どちらかという大規模なという話もありましたけれども、私がこれを紹介するのは、金沢が今、力を入れているのは数十人程度の中小規模MICE、こういったものの開催をメインに据えて推進しているということでもありますけれども、いかがでしょうか。こういう数十人程度をターゲットにしての推進活動、本市においても今、幾つか言われましたけれども、この糸魚川にあるプログラムメニューとか、そういったものを用意して、積極的な展開というものは考えられないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

我々、着地型観光の1つの考え方といたしまして、やはり場所、そして観光的にもつなげるような状況の中で誘致させていただいておりますし、また今、大相撲の誘致もさせていただいたり、いろいろ今そういうものを考えさせていただいております。ですから挙げれば結構数があるので、今、ここで全部というのは難しいと思うわけですが、やらせていただいております。

職員もそういう中で、積極的にいろんなところへ入って全国旅行業協会だとか、また、旅行者の1つの会社の中においておるわけございまして、昨年から要するに体験的なものの中においては、はとバスなんかもそういう形の中ではあらわれておるわけであります。積極的に、そういうところに取り組んでいきたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

積極的にいろいろと取り組んでおられるというお話で、期待をしたいと思っておりますけれども、市内においての、でもMICEという認知度といいましょうか、言葉の問題もあるのかもしれませんが、そういった認知的なものは、まだ少ないように思いますけれども、先ほどの金沢市では非常にMICEのビジネス普及セミナーというものをやっております、定員を超える申し込みがあって、活況を呈しているということだそうですし、隣の上越市においても新幹線まちづくり推進上越広域連携会議、越五の国ですね、そういったところでセミナーをこれまで開催したりして、積極的な姿勢が見られます。このような上越及び越五の取り組み、ご存じかなと思うんですけれども、このような当地においても、そういったセミナー等の活用、あるいは開催。当地ばかりじゃなく

て北アルプス日本海広域観光連携会議、1市だけではなくて、こういった広域観光の中でもM I C Eについて取り組む予定とか、そういったものはございませんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

機会があれば、そういう取り組みもしたいと考えておりますけれども、確かに市内におけるM I C Eの認識、そういったものは、まだ低いんじゃないかなと思っております。当市に合った誘客活動、そういったものが何か、そういうものを考える中で進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

新潟県には、新潟県のM I C E研究協議会、県の産業労働観光部の中に所管されてあるようなんですけれども、新潟の魅力、資源を生かしたM I C Eモデルの検討とか、メンバーによる共同誘致活動とか、M I C E先進地の視察研修、国内他地域との情報交換や連携等々を活動内容としておりますけれども、上越市や上越観光コンベンション協会なども加盟してるんですけども、見た限り糸魚川市は見当たらないんですけども、そのことについての考えはいかがなもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その組織団体に加盟すれば積極的にそういうものが受けられるという、会議や大会が受けられるならいいんですが、ただ実際、我々は同じことを目指してるわけでございますので、その中に入ってやればいいのかというのは、その辺はちょっと研究しなくちゃいけない部分でございますが、我々はもう当然そういった糸魚川市のキャパに合った会議、大会というのは、今考えて、進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

先ほどM I C Eと観光のことについて話をさせてもらいましたけれども、キーとなるのは観光とかなり似たようなものでして交通とか、通信とか、宿泊、食、そういったものでありますけれども、そのうち交通インフラと通信インフラの整備について、最近ちょっと気になることがあるので、伺いたいと思います。

まず、交通インフラのことなんですけれども、2月25日にJR特急の「はくたか」の事故があ

りました。碍子の金属部分が腐食して落ったということなんですけれども、間もなく始まるデステイネーションキャンペーンもあったりするわけで、水を差した形じゃないかなと思って残念に思っているんですけれども、この事故に対しての市の捉え方や、あるいは何か対応されていればお願いしたいと思います。

議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

午後0時00分 休憩

午後0時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

交通インフラの整備ということで、MICEとの関係で、今、話したが、質問というよりも、こういったことがあってはならないので、ぜひ交通のほうの整備ということで、要望をされるようにお願いしたいと思います。

もう1点、じゃあこれも聞いていいのかわからないですけど、先ほど話しました新潟県の新幹線活用地域活性化委員会なんですけれども、近山さんという方、北越急行の方なんですけれども、切符の購入についていろいろと懸念をしております。

今、1番の問題というのは、新潟から日本海経由で信越本線、北陸本線を介して金沢までの乗車券はストレートに買えない。つまり直江津で、えちごトキめき鉄道、富山から別の三セク、また、石川で別の三セクと連なるもんですからマルスでは買えないと。糸魚川へ行くときは、乗り継いで各駅までの切符を買うということになるそうですが、この辺の事実関係といいましょうか、その辺の認識というものはいかがなもんかなと思ってるところであります。

これはコンピューターの容量が大きくなり過ぎて、投資額が非常に莫大になるということらしいんですけども、こういったことはMICEはやはり糸魚川市ばかりじゃなくて、近隣の地域観光との連携の中で、いろいろと影響があるのではないかなということで懸念をしております。

もう1点、切符のことを言いますと青春18きっぷ、若者に人気があって非常に使われてるそうなんですけれども、これも北陸3県をまたがって青春18きっぷを行おうとすると使えないと。そういったことに対応した北アルプス日本海広域観光連携会議などでの広域でのMICEの誘致を考えた場合、新しい地域の周遊のあり方とか、切符の購入等の影響がないように対処を求めたいなと思います。

次に、通信インフラ整備でございます。

MICEでは先ほど課長が言われましたように海外の国際会議、あるいは企業の会議誘致、そう

いったものがあるわけなんですけれども、外国の方やビジネスマンから一番充実を求められるのは、Wi-Fiなどによるインターネットが、どこでも使えるようにしてほしいと言われることだそうです。このWi-Fiの整備、特にキャリアフリーのWi-Fiスポットの整備促進が必要だということでもありますけれども、上越新幹線の場合は、利用客は観光客よりもビジネス客の方が多いというデータもありますけれども、新幹線車内の通信環境、インターネット等の整備、東海道のほうは整備されていますけれども、上越新幹線の車内Wi-Fiはまだだというふうに聞いております。北陸新幹線はどうかかなということで懸念をいたしております。ということで、私が懸念しております交通、通信インフラ整備のことについて、若干、述べさせていただきます。

また、新幹線駅について、上越新幹線も駅についてはWiMAXが整備されているということで、糸魚川駅においてはJR西のほうでは整備の予定があるのかなと、この辺もつけ加えさせていただきます。

糸魚川市のユニークベニューとしてぱっと考えられるのは、日本民俗音楽会の会場となったフォッサマグナミュージアム、それから谷村美術館、翡翠園、玉翠園、前回の一般質問でも取り上げた北前船の町屋と白山神社の宝物殿、そういったものがあると思うんですけれども、各ジオサイトでも小規模なら可能で、おもしろいものを幾つも考えられます。企業や学会、団体のMICE担当者に、これらのものをミーティングや研修としての働きかけをしてもらいたいと思いますけれども、再度のような形になりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当然、MICEの会議自体の目的、趣旨というのはあると思いますけれども、そういう日程の中で都合がつくようであれば、当然、市内のいろんなところに回ってもらうようなプログラムの提供はしたいと思ってますし、そういう時間がなくても市内のパンフレット等、資料の提供はしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

あと企業といえば、糸魚川市はモンベル社とフレンドエリアとしてのつながりがありますけれども、モンベル社との何かのこれまでの取り組み、あるいは現状は何かありますでしょうか。

モンベルはご存じのように、日本を代表する総合アウトドアブランドですから、こういったモンベルを中心としたアウトドアのいろんな研修とか、会議とかというものは可能なんじゃないかなと、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

モンベルのみならず、やはり全国的に有名な企業との連携とか、いろんな面でそういったところは大事だろうと思っております、まだこれとは具体的に、どういう形という形はないわけですが、我々のやはり自然が多くあるわけがございますので、そういったのをどのように連携していくのか、どのように我々は企業もやはりその中で活躍いただけるかというのは、これからの中でまとめていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。

7番（田中立一君）

M I C Eでおもしろい取り組みとしましては、山形県の上山市、大体3万数千人の市なんですけれども、そこで行われた温泉つきホテルでの第9回の国際計算機情報科学会、こういうところでも、地方でも200人程度の規模の国際会議が開かれることができるということでありまして、大町温泉にあります星野リゾートもM I C Eスタイルというものを売り込んでおります。

今回、糸魚川版として、規模の小さい自治体でありますけれども、来年、北陸新幹線が通って停車駅があること、世界の冠がつくジオパークに認定されて、市内に多くのジオサイトがあること、海、山が近くで開発されていない自然があること、北アルプス日本海広域観光連携会議やチーム糸魚川など、市の観光推進や市全体のチームワークを高める組織ができていて、ユニークなM I C Eの展開が可能だということから、糸魚川版のM I C Eの推進ということを捉えさせてもらいました。

M I C Eで最も必要なものは、アメニティとホスピタリティ、すなわち快適な、魅力的な環境と、心からのおもてなしだそうです。ないもの探しでなくて、このようなあるものを活用して、ぜひ糸魚川らしい交流人口の拡大につなげてほしいと思いますので、よろしく願いして、私の一般質問を終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

関連質問ありますか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

関連質問なしと認めます。

それでは13時まで、昼食時限のため休憩をいたします。

午後0時08分 休憩

午後1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を開きます。

引き続き、一般質問を行います。

次に、古畑浩一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。〔20番 古畑浩一君登壇〕

20番（古畑浩一君）

奴奈川クラブ、古畑浩一であります。

これより通告書に従いまして、一般質問を行わせていただきます。

1、北陸新幹線開業と受入策・観光振興について。

北陸新幹線開業まであと1年。カウントダウンイベントも計画され、いよいよ目前に迫ってまいりました。

100年に一度の好機である新幹線開業。故に100年の大計をもって臨むべきと考えます。長い年月をかけて検討されてきた開業に向けて、1年前にやっておくべきことは何なのかを、いま一度見直すことが必要と考えます。

新幹線開業を、どう糸魚川の活性化につなげるのか。新幹線ダイヤ決定まで残りあと9カ月、在来線の経営分離を含めて利便性は上がるのか下がるのかなど、受入れ態勢と交流人口の増大策・観光業の振興策についてお伺いをいたします。

(1) 新幹線開業における諸課題について。

停車本数と糸魚川駅の拠点性強化について。

並行在来線トキめき鉄道・JRからの移行、経営分離の具体的なスケジュールと活性化策。

リゾート列車の運行開始時期と利活用策。

在来線の利便性確保と各駅の魅力アップ。

(2) 交流人口増大・観光業振興に対する具体策。

観光業とは具体的にどんな業種を指すのか。

観光業の推移（業者数と売上高の推移等）

日本海アルプス広域観光連携推進の具体的なプランについて。

デスティネーションキャンペーンの具体的内容と新潟県との連携について。

権現荘リニューアルと民業圧迫是正について。

海の魅力アップと海水浴場整備について。

開業前イベントの効果的プランニングと事業費の確保・既存イベントの連携策について。

(3) 「100年の大計」に立った総合・戦略ビジョン策定の具体化について

鉄道・バス・タクシー等の公共交通網・新駅設置基本構想・広域連携の意義と効果・交流人口と経済振興の関連性など包括的都市計画の策定の必要性についていかがお考えか。

以上につきましてご答弁いただきますよう、よろしくお願いいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

古畑議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、現在の特急の停車本数を確保するとともに、ジオパークの活動を核として北アルプス日本海広域観光連携会議の市町村と連携を図ることにより、糸魚川駅を関西、北陸方面からの西の玄関口、長野県大町、白馬方面の北の玄関口として、その拠点性を高めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、北陸新幹線開業日にえちごトキめき鉄道が営業を引き継ぎすることになりますが、今のところ具体的なスケジュールは発表されておられません。

今後、えちごトキめき鉄道、県、沿線市とさらに活性化策を検討してまいります。

3つ目につきましては、並行在来線開業後1年以内に運行する予定といたしておりますリゾート列車は、自社線はもとより大糸線などの他社線への乗り入れを図り、沿線の魅力をアピールしていく予定であります。

4つ目につきましては、運賃据え置きや新駅の設置により利便性を確保するとともに、駅施設を利用して地域の皆様が集えるスペース等も考えてまいります。

2点目の1つ目につきましては、観光にかかわる旅行業、宿泊業、運送業、飲食業、土産物関連業種などあります。

2つ目につきましては、観光業全体としての統計資料はありません。

3つ目につきましては、連携市町村が持つ質の高い自然資源を生かす中で、周遊型広域観光商品の開発や、観光誘致イベントの共同開催などを展開してまいります。

4つ目につきましては、市内全域で取り組む受け入れ企画や、首都圏からの誘客ツアーを計画いたしております。

県と連携をして行う事業といたしましては、6月1日に、うまさぎっしり日本海縦断列車が糸魚川に来ることになっております。

また、キャンペーンに向けて首都圏や関西圏の旅行会社との商談会も実施されております。

5つ目につきましては、施設のリニューアルにより利用者の利便性を図るとともに、民間事業者の皆様と連携を図る中で、ともに発展してまいりたいと考えております。

6つ目につきましては、海の魅力をさらにグレードアップするための推進計画の策定を進めるとともに、ことしの夏に向けた誘客活動を実施してまいります。

7つ目につきましては、3月16日の1年前イベントで、今後のイベントのコンセプトやスケジュールを発表する予定であります。

事業費は新年度の予算に計上いたしております。既存イベントを実施するそれぞれの団体と情報交換をする中で、効果的な事業実施に努めてまいります。

3点目につきましては、当市のまちづくりの基本指針であります総合計画に基づき、都市計画マスタープランやジオパーク戦略プラン等を策定し、糸魚川の活性化に取り組んでおりますが、今後もこれら計画について状況変化を的確に反映させながら、効果的な施策の実施に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もございますので、よろしく願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それでは、これより2回目の質問をさせていただきます。

それでは、の停車本数と糸魚川駅の拠点性の強化についてであります。これはJRが具体的なダイヤを発表しておりませんから、答弁としまして、今、市長のご答弁しかないんだらうというふうに思うんですが、ただ、民間の研究会によりますと、停車本数について糸魚川は上下線それぞれ12本ずつで、各駅停車の「はくたか」のみで24本、上越妙高駅は速達型の「かがやき」を含む全列車停車で34本と予想されております。これにつきましては、飛行機との時間競争を勘案すれば、新潟県駅の通過ということも十分考えられるというふうに予想されておりますが、こうした予想分析は、既に行政としても分析されていることだらうというふうに思いますが、こういう予想について、どのように受けとめているのかお聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これまでも何度かお答えしてありますが、新幹線の運行本数については、まだ公式な発表はなされておられません。それぞれ民間の予想、それから旧糸魚川でも予測をしたことがありますが、それはそれぞれの予測でありますし、また今、新幹線の検討小委員会では速達型が14本、それから各駅停車型が13本と予測をしておりますが、基本的には市長が申しましたように、今の「はくたか」「北越」が、それぞれ上り14本、下り15本という本数がありますので、相当な負担金を出しております当市といたしましても、今言った現状の特急以上のものをこれにプラス速達型も、これは全てということではありませんが、何本かという形でこれからも要望していきたいと思っておりますし、予測については、各駅についてはとまるんであるうけども、速達の何本かをとめるというのは、今後の要望にかかってくるもの、それから拠点性のアピールにかかってくるのだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やはり現状においては、速達型の「かがやき」をとめるということは、かなり至難の技であるということの予想であります。これは最初から糸魚川もそのつもりで覚悟はしてきましたが、それはよしとはしてきませんでしたよね。では、「かがやき」をとめるというための秘策といいたいまいしょうか、これまでの考え方では非常に厳しい。じゃあこれから新たに「かがやき」型速達をとめる考え方という作戦、戦略はあるんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

産業部長（加藤政栄君）

お答えをいたします。

今の戦略の関係でございますけど、基本的には糸魚川駅の拠点性を高めることが一番だと思っております。そういう意味で、今、市として取り組んでおりますのは、北アルプス日本海広域観光連携会議という形で、駅を糸魚川市だけが使うのではなくて広域的に使うと、そういった観点で今、取り組みを進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

日本海アルプス構想については、この後、じっくりお聞かせいただきますが、やはり私は拠点性強化には、特急「北越」の始発、大糸線の利便性の向上、リゾート列車の活用、そして富山県との連携強化の4本柱だと思うんですよ。これを強化して、これまでも話をしてきましたが、JRとしては、とめてくださいではとまりません。とめなくちゃならんというだけの理由を糸魚川市でつくってくださいというのが、これまでの話の流れだったと思う。この件につきましては、今回の質問も金子課長さんはじめ、またこの話題かと思われると思うんですが、やはりこの1年前ですよ、この1年前で、どうアピールして、どういう形の中で作戦をやっていくのか。やっぱり見直しをして、今、行動の時期ですよ。したがって、こうした今ほどの4本柱の拠点性をどう高めるのか。これについては、いかがお考えでありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

その4つの点を強調していくというのは、おっしゃるとおりだと思っておりますが、今、それぞれ1つ1つの中では、やっぱり特に北アルプス日本海広域観光連携会議の中で具体的な商品、例えば糸魚川へ来て例えば白馬、大町へ、こういうふうに見どころがあるとかというのを具体的にJRにアピールしていく必要。それからもう1点、優等列車、これについても、これは直接、JR西日本というより、やっぱり新潟県と県土分断の関係、それからJR西日本にしても関西方面からのやっぱりお客さんがふえることによってJRの金沢より西、それから当然、金沢からは新幹線で糸魚川に来る。そういうお客がふえれば、それは当然、自分の利点にもなりますので、その辺を説明していく。それからやっぱり大糸線に対しても、これはJR西日本の駅でありますので、大糸線と新幹線を絡めたやっぱり商品の開発等も含めた、そういうものを1年の中で具体的にアピールしていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

同じ質問を何回もやって、そして同じ答弁を何回も聞くと。ただ、この1年前は、もう金子課長、その答弁は過去、何回も言ってきたことですよ。だから4本柱についての対応策はこうだ、もう広域連携策については具体的にこうだ、合同キャンペーンについてはこうだということ、もうこの場で具体的に言わなくちゃいけない時期なんですよ、この1年前。そして予算案が計上されて、ことし1年間の計画が決まるこの3月議会に、より具体的に、より戦略的に、私は発表すべき時期ではないかなと思っております。

だから今までの中においては、やはりそういったことについて具体的に、また、万人が見てわかるようなプランニングというのが、私はおこなっているのではないかと。今のところの答弁が、そこに終始するものであるということであれば、本当になるべく早い時期に横断的な、やっぱり包括的な戦略プランというものを、私は立てていただきたいと思っております。これらについては加藤部長には、やはりハードとソフト、いわゆる都市整備課と交流観光課というものを抱えるキャップとして、部長にひとつまとめていただきたいということをお願いしてきたわけですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

産業部長（加藤政栄君）

ただいまの連携の話でございますけれども、今ほど議員のほうからお話のありましたとおり、ハードの整備というのは、ある意味、行政が主体となってやれる部分があります。それから今度、ソフトの部分につきましては、これはやっぱり行政だけではなくて、それぞれの関係者が、それぞれの役割を踏まえてやっていかなきゃいけないと、そういった部分もあります。部内での連携もありますけれども、そういった形でソフトの面につきましては、さまざまな方たちの役割分担の中で進めていく。市としては、またそれを連携、支援していくというような形で、取り組んでいきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それを遠慮なくやってください。

しかし、誰かがやらなくちゃならんし、誰かがまとめなくちゃいかん。やっぱり商工農林水産課なども所管して、全体の中で今考えている。パズルのパーツは、それぞれできているんだ。それを誰が組み立てて、こういうふうになりたいんで、市長、行政部局、この方針でいきましょうというのをつくり上げるのが部長の役目です。これはもう覚悟して、そういうもんだと思って、しっかりと、早急にまとめていただきたいと思っております。

それから の並行在来線、えちごトキめき鉄道、JRからの移行なんです、先ほど田中議員さんもちょっと言いかけて、通告外ということでもとめられましたが、やはり1つには2年前倒しにして第三セクターをつかった割に、何で今ごろ事業認可をとっておるのか。富山、石川、長野と全く同時期ですよ。これ2年前倒しにして、糸魚川だけさきに第三セクターをつかった意味というのは何なんですか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新潟県の並行在来線は2つの路線といいますか、信越本線、それから北陸本線、それぞれ経営もJR東日本・西日本と違ってありますし、それぞれ若干、くの字型に折れている会社ということで、今まででもその中を横断的には、なかなか走れない線路であったわけです。そういう非常に課題が多いこと。それから富山県に比べ非常に乗客密度も少ない、基本的には大きな支援がなければ赤字経営になってしまうという、そういう形の中で早目に立ち上げたものとは思っておりますが、その中で議員がおっしゃるように、じゃあ早かったから同じ終着点になったかということ、今ご存じのように4社合わせての事業認可申請と、事業認可の認められる形になりましたので、そのところで遅いではないかということ、これはもう私、そういう事実がありますので、その部分については、そのとおりだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

2年前に前倒ししてやっても意味なかったじゃないかということについて、そのとおりだったという答弁だと思いますけど、全くちょっと憤りを感じているんですよ。

ちょっと先に聞きたいことからちょっと聞きますけども、じゃあ今回の「はくたか」の事故がありましたね。架線をとどめるために使う碍子という絶縁体が腐食してパンタグラフに引っかかり、それが破損となって大きな事故になった。これはその前にJR北海道が大事件で、やっぱり線路軌道が直っていなかったとか、あれは国鉄からJRにかわるときに、しっかりとした点検作業がなかったことが原因だと言われている。じゃあ、今回はどうなんでしょうか。しっかりとした、こういったような事故を受けて、JR側と合同で点検するなり、検査するなりということはやってるんでしょうか、計画の中にあるんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的に譲渡資産は在姿譲渡が原則でございますが、その中でも特にJRと、それから新潟県との合意、同意の中では、特に必要な既存鉄道施設の整備を譲渡前に幅広くということの中で、特に私どもがお聞きしとるのは、まずレールと、それから架線については、それからトンネルもどうぞございますので、それについては特に慎重に、しかも優先的にやるという話を聞いております。

今回、事故が起こったわけですけど、それがJR北海道みたいにならないように、これはもうより強く話していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは中古マンションを買うのと同じようなもんだと思うんですよね、中古車を買うのと同じようなもんでもいい。譲り渡して早い時期に、もしも1年ずれてたら、開業してすぐの事故になりますよね。そういうのを考えていった場合、保証期間はじゃあどちらで、どちらの責任が、こういう根本的な基礎的事故が起こった場合は、どちらの責任なんかみたいな話し合いは、ちゃんとしてあるんですか。取締役の副市長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今回の2月25日の事故につきましては、今、JRのほうで原因を究明しておりますし、その辺につきましては、きちんとした検証結果に基づきまして、また協議をしたいと思っております。

なお、いつの時点で事故が発生した場合の責任とか、そういう負担の所在につきましては、今後、その辺はまだ実際の引き渡しの段階で、その辺については、きちんとするのではないかと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

じゃあ何を検証する、何を検査するという項目は全部できているんですか、リスト。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

そのリストは、私どものほうにはいただいておりません。ただ、多分これは25年の会議の中で私のほうも、これは準備協議会の中で例えば普通の物件であれば瑕疵担保というようなものが1年、普通、物事に応じてですけど、あるんですけども、それについては県とJRのほうでは、どうなっとなるかという質問も投げかけてはあるんですけど、まだ正直、答えは返ってきておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

だからおかしいと言うんですよ。1年前に、今、もう1回同じ質問をずっと繰り返しているのは、この1年前に、みんなこれから、これからという答弁でどうするんですか。あんな維持管理費のかかるのは、わかっているわけでしょう。しかも海辺で潮が当たる、もう自然に腐敗していくという率は高いわけだ。じゃあそれに対して、事故があった場合の責任はどうするんですか。電気通信施

設だってそうですよ。この間、最終列車が終わった後、列車が行ったと思って作業車が入って、そこに帰ってきた列車がぶつかって脱線事故で、大きな報道がなされましたよね。最近、やたら鉄道の事故が目立ちませんか。ああいうのを懸念している。そのとき行政は何していたか、議会は何をチェックしていたか。だからこの1年前は受験生と同じで、1年前にやらなくちゃいけないことの性能チェックのリストをつくっておかなくちゃいけない時期ですよ。それらを踏まえて、今後JR西、それからえちごトキめき鉄道との財産移譲については、糸魚川市としては、どのような検査体制でいくのか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

JR西とえちごトキめき鉄道との財産の移譲でありますけども、当然ながら鉄道の実際の運行するものは、えちごトキめき鉄道がきちんとやるというふうに思っております。ただ、駅舎だとか駅前施設だとか、そういうものにつきましては市もその辺につきましては参画して、きちっとやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは例えば清掃センターのいろんな問題で、日立側と長い間、紛争といいましょうか、論争を繰り返してきた。そのときにやっぱり、何といいましょうか、最後の切り札になったのは、こうなった場合にはどちらの責任なんだ、こうなった場合の管理運営費はどっちが持つんだということを議会が仲介して、それを決めたことにあったんですよ。だからその後、5億円よこせという管理費を2億5,000万円に抑えることができた。

えちごトキめき鉄道でいったって第三セクターでしょう。その運営費が赤字になった場合は、嫌だと言ったって沿線の自治体のほうに負担が来るんでしょう。これはだからそう甘いことは言ってもらえない。これはやっぱり早急にえちごトキめき鉄道に対して、また、JR側に対して、以下の項目で確認事項を、いつまでに出すんだということをはっきりと行ってください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

財産の引き継ぎ等につきましては、当然ながら第三セクターの中でも県が筆頭株主でございますので、県を中心にして、その辺はきちんとしたいと思っております。具体的には、今後どういうふうな手順になるのかということにつきましては、早急にその辺の資料なり、協議をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

糸魚川市としては、しっかりとした責任の所在を要求した。これは県を仲介してでも結構ですが、そういった事実をしっかり残すようにしていただきたい。

それと基本的に、じゃあ例えばえちごトキめき鉄道さんの話にまた戻っていきますが、リゾート列車の運行が開業に間に合わないということ、これはいつ知りましたか、行政は。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

私どもがその話を聞いたのは、25年の暮れか、ことしに入ってからであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それを聞く前までは、リゾート列車はいつ走るものだと思ってましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは私の頭の中ですが、リゾート列車の運行については自社線を走る場合は、それはもう会社の引き継ぎと同時に走れるわけですが、基本的には自社線だけを走って、それがリゾート列車の有効な活用ではないと思っておりますので、やっぱり他社線とのいろんな協議、これについては、今、まだJRの間ではできませんので、いつと言われれば同時ではないですけど、1年以内という言い方も、基本的には会社ができるリゾート列車もでき上がって、運行について少しならしをしながら、徐々に使われていくものだというふうに認識しておりました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やはり経営移譲、いわゆる経営分離された在来線の経営危機、その中において出てきた1つのアピールポイントとしては、このリゾート列車だった。それは生活路線だけでいくと、やはりその沿線に住む、また、利用者数の数からいっても非常に厳しい。それを補完する意味での、このリゾート列車に対する期待は非常に高かった。けども、それが開業に間に合わない。要するに、開業ダッシュに間に合わないということですよ。これらについての考え方というのは、最終的に開業後1年とかって出てくるのも、さらに1年後に発表になったわけだ。1年後に発表というのはおか

しいですが、既にずっと計画があっってきた。

だから例えば経営の基本計画にしる、えちごトキめき鉄道さんが示してきたいろんな資料については具体的な、何ていいんでしょうか、細部にわたってまでの交渉がなされてなかったということになりませんか。だから思惑が外れてくるんでしょう。その説明を聞いてきた我々議会側は、開業と同時にリゾート列車が走るもんだと、華々しく、思っていた。その考え方が、やはり私はすり合わせが甘いから。やはり根掘り葉掘り細かいことまで、県やえちごトキめき鉄道さんと私は話し合うべきではないかと思うんですよ。「だろう」とか、「そんなはずじゃなかった」というのは、もう許されない時期にきてると、そういうふう思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

リゾート列車につきましては、私のほうも認識も低かったわけでございますけども、昨年12月18日ですか、えちごトキめき鉄道の本社へ行きまして、その辺の協議をした中で、今回、初めて聞いたということでありまして。開業後1年以内に運行するというので、今、これから列車のほうを作成と発注をするんだということを聞かされたということでありまして。その辺につきましては、大変申しわけないと思っております。それ以後、いろんな個別のものにつきましては出向いて、いろんなことで協議をしております。そういったことで、できるだけそういうことのないようにということで、1月、2月と加藤部長も含めまして、担当課も含めまして、何回も出向いて協議をしてるというのが実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

だから気づくのも行動も遅いんだって、もう1年前でしょう。全部タイムスケジュールを合わせて、何月何日までにはこれをやって、これの確認作業が終わったらここについていうように、もう全部作業段取りができてなくちゃいけない時期なんですよ。何でみんなこれからなんですか。来年の、もう1年後には開通するんですよ、ええかげんにしてくださいよ。そらやっとかんなんははずでしょう、行政としての責任においても、えちごトキめき鉄道や県ばかりの責任じゃない。はっきりしないんなら、やはり出資者であり、また、沿線の自治体として重要な責務を負っている系魚川市として、正式に何でも細かく聞けばいいんですよ、私のように。私の言ってることをそのまま向こうへ伝えて、今ごろ全てのスケジュール表が明確にできてないというのは、どういうことだということ逆を言えばいいんですよ。何であなた方はいつも県だとか、そういうことには強く言えないんでしょうかね。行政の体質は市民のやはり生活権、そういったものをしっかり担保して、確保して、そしてそういったものを保障していくのが行政の仕事ですから、そこは遠慮なくぜひやっていただきたい。

さらにこのリゾート列車、デザインの決定までの手順はどうなっておるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

うちのほうには、まだどういうデザインで、それからどういうコンセプトというのは来ておりません。この辺についても、開業後1年以内ということになりますと、もうこれも早急に示してもらわないと、私どもも何も言える場がなくなりますので、これもまた同じかと言われそうですが、今、早急に要求していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

やっぱり米田市長、結局こちらが、けつたたいいかなきゃだめなんかということになりますよね、議会側が。皆さんたちに主体性と責任感というのは、どこにあるんだというんです。

じゃありゾート列車の運行、経営、地域密着的なプランというのは、どういうふうにするんですか。どういうコンセプトでリゾート列車を走らせるということで合意しとるんですか。それに対しての糸魚川のメリットは、どのくらいあるんですか。そこら辺までしっかり話してあるんでしょうね。まさか、これもリゾート列車をつくってから考えるっていうんじゃないんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

リゾート列車につきましては、利活用を進めていくための大事な素材だと思っております。

ただ、具体的にどこを走らせるかというのにつきましては、それは相手のあることだと聞いております。まずはえちごトキめき鉄道の範囲内で始めて、その後、例えばJR西と協議が済めば大糸線ですとか、あるいは富山のほうだとか、さまざまなところに入っていくということになりますけれども、それにつきましては、まず、協議を行ってからだというふうなことで聞いてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

じゃあ話は糸魚川にいきましたから、では、泉田知事は糸魚川の橋上駅舎のセレモニー、そしてその後、知事を囲む会、やはり声高らかと私は大糸線にリゾート列車を走らせる、大糸線のすばらしい姫川渓谷は全国に誇るべきであると言いましたよね。てっきり、こっちはリゾート列車の話はうまくいったんだと思いました、乗り入れの。そしたらJR側は、一切聞いてないと言ってるじゃないですか。じゃあ、この協議自体はいつから始めるんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

大系線のJR西には、これはJR東のリゾート列車の乗り入れは、これは何年も前から申し入れてきましたが、これはまだかなわないというところでございますし、今度はえちごトキめき鉄道につくるリゾート列車については、これは既に話の中では大系線に乗り入れるような話も、これは内々にはしてありますが、これもまだ具体的な話は、いつ、どんな列車が走るのかがわからないと、JR西も対応のしようがないということでございます。基本的には、これはえちごトキめき鉄道にかわってからの乗り入れ協議になると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それでは先ほど話もした大系線の利便性アップ、じゃあ南小谷との例えば直通便で、新幹線のダイヤに合わせた直通列車、そういうものをつくって利用拡大をされたらどうか。また、ヒスイ峡の観光列車運行というものをJR側と協議していけないかという話。私だけじゃない、これまでも多くの議員の皆さんが、同じような提案をしてきた。じゃあこれについては、どのように進めるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

新幹線の停車本数、ダイヤがまだ発表されておりませんが、当然、大系線はJR西のものでありますから、そのダイヤについても生活路線の時間と、それから当然、観光の時間というのがやっぱり割り振られて、大系線の利用促進を図っていかねばならないと思っておりますし、また、これは一昨年からですか、大系線の利用促進という中では、JRのほうでも金沢駅から糸魚川、要するに大系線沿いの温泉へ特別列車というものを立てて、そういう実績もございました。

実は今年度、25年度も夏に、そういう企てはあったんですけども、例の姫川の右岸の災害ということで、これは流れましたが、引き続き、そういうものを企画して、大系線の利用促進に努めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

先ほども言ったように列車ダイヤの発表というのは、何も新幹線だけじゃないですよ。大系線も含めて列車ダイヤというのは決まる。じゃあ新幹線の運行形態が決まったら、それに合うような、連絡できるような大系線というものを、今、具体的にやっとなないと、全然、来年の今ごろという

のは、やっぱりだめだったねって話で、がっかりはせやせんかと。だから大系線の利便性って、本当に簡単に一言で言うけれど、これだって何十年の歴史があって大系線期成同盟会だとか、輸送強化期成同盟会とかつくて、長野県側とも力を合わせてやってきたことじゃないですか。この提案だって、今、初めてやったわけじゃありませんよ。新幹線ダイヤに合わせた大系線の利便性の向上、これだって粘り強くじゃあＪＲ西日本だとか、そういうことについては、こういったことを具体的にお願ひしてるんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

もうこれは古畑議員が議長の時にも一緒に活動いただいたわけでございまして、ご承知のとおりだと思っております。

なかなか大系線についても、やはり新幹線の時間に合わせたダイヤ編成になるんだろうと思っておるわけでございまして、そういう中で大系線が先になるというのは、なかなか難しいんだろうと思いますが、しかし、我々は糸魚川駅の利便性を高めるためには、やはり大系線が大きな鍵だろろうと思っております、それについては今までもやってきておるわけでございまして、新たな枠組みといたしまして、北アルプス日本海広域観光連携会議というものをつくって、さらに輪を強くしながら、そして既存の組織も入れて数多くやっぱり要望に行かないかなと思っております。

これはもう最後の1年というのは、1年じゃないですよ、9月時分に恐らく内々的には決まってくるんだろうと。その辺を目がけて我々は行動、活動をしなくちゃいけないと、今、思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

大系線については、もう市長は姫川沿線ですから、生まれたときからのおつき合いだと思ふ。ただ、わかるように列車ダイヤを1つ構うのって物すごく時間がかかりますよね。何のためにそうなるのか、それをやったらどうなるのか、そういった細かい企画や要望もやっぱり練り広げなくちゃならん。幸いにして、その連絡期成同盟会等の会議があるわけですから、やはりより具体的な提案をすべきだ。それは市長がおわかりのように私が議長のとくに、何回もそういう具体的なことをすべきだというお願ひをしたと思ふんですけども、そこはしっかりやっていただきたいというふうに思っております。

それから先ほどちょっとお話が出ました、糸魚川・村上間の臨時企画列車「NO.D.O.K.A」というんですね。これはどういうことで走るようになったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

これについては、新潟デスティネーションキャンペーンの企画の1つとして、6月1日に村上から糸魚川まで臨時列車を走らせる企画となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

それは新聞を読めばわかるんですよ。だから、これは基本的に直行特急実現期成同盟会主催でこれをやるんでしょう。だから、この「NO.DOKA」の結果次第によっては、直行特急ができることに何か大きな意味があるんでしょうか。しかも、この「NO.DOKA」というのは、例えば実験線で、これはリゾート列車ですけれども、こういったものを通年で走らせていく、または定期的に走らせていくということに対する試験的なものなんじゃないでしょうか、お聞かせいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

交流観光課長がお答えしたのは、デスティネーションキャンペーンのほうのイベント列車ということで、今、議員が言われたのは、「NO.DOKA」というのは、これはおっしゃるとおり上越新幹線、それから北陸新幹線の直行特急の同盟会の中の1つのイベントということで、これは3年ほど前から鉄道の利用促進、要するに糸魚川から新潟へ行く、その利用者をふやそうという1つのイベントの中で、この3月の末に1便は新井のほうから、それからもう1便は糸魚川のほうから「きらきらうえつ」、それから「NO.DOKA」というものの、利用促進の一環として行うもので、これによって少しでも「北越」なり優等列車の利用があるんだということを示す、そういうイベントでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

金子課長の言われたところ、本当だと思うんですよ。そうするとこの「NO.DOKA」、定数は決まっているわけですが、多い場合は抽せんで決めるという。そうすると募集等については殺到するようにしてやらないとアピールできないんじゃないか。相手は、要するに新井のほうからも出るわけだ。新井のほうも、この間も上越3市特別委員会委員長会議に行きましたが、向こうだって自分たち発のやっぱり快速や優等列車を走らせたいという思いがありますから、ここは綱引きの大事なところですよ。しかも、これは新潟駅にあるんですね、これ支社が所有しているものなんだそうで、こういったことについては新潟県のやっぱり下越の皆さんも、北陸新幹線で上越新幹線のお客を取られないようにという、さまざまな企画をされているようだから、こういったところで、やはり糸魚川のPR、アピールというものも私はしていただきたい。それが最終的に「北越」等の

列車停車だとか、糸魚川の駅の拠点性が高まるということにつながるんじゃないかなというふうに思っているんで、お願いします。

それから肥薩おれんじ鉄道の取り組みについて、前回、ご紹介をしましたわけですが、肥薩おれんじ食堂だとか、おれんじカフェだとか、本当に地域密着型でさまざまな企画を展開して大成功しておりますが、こういった肥薩おれんじ鉄道の取り組みについては担当課として、その後、何か調べた経過はございますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

特にキッチンといいますか、食堂列車というのは承知しておりますが、それ以上詳しくは調べたものはありません。

それから、ちなみにえちごトキめき鉄道のほうでもディーゼルの中の8両つくる2両については、そういうイベント、例えば食堂車的にも使えるような形で計画してるというところがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これは、肥薩おれんじ鉄道の取り組みをここで紹介すると、もう残り時間は全部なくなります。インターネットでも何でもいいです、本当は現地へ行って見てきてもらうのが一番いいですが、地域密着型、観光地密着型で、すばらしい取り組みをやっていますわ。嶋津さんの出身の会社ですから、これは行ってもらって、ぜひあの経営の内容のノウハウは引っ張ってきていただきたいというふうに思っております。

それから在来線の利便性確保と各駅の魅力アップなんですが、例えば新駅設置のプランニング、前回の関係7団体との懇談会の中では、押上強靱化計画というものをつくって、押上駅をただつくってもらっただけではないと、それを核としたまちづくりを推進していきたいという考え方。こうした考え方を含めた新駅設置のプランニングということは、行政としてはお持ちなんですか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

プランニングは今ありませんけども、県のほうで新年度予算のほうで調査費等を計上してるということですので、新年度になりましたら県とも協議した上で、具体的にどういうスケジュールで、どういうプランニングをするかということで協議をしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

もうみんなこれから、これからということなんですけどね、もうあっと言う間に時間は過ぎていきますので、やっぱりしっかりしていただきたいというふうに思っております。これも開業と同時にはできるわけではないというふうに思いますが、1つの交通の利便性を上げることで、どういう影響が出るのかについては、ただ県に対して陳情するだけではなくて、糸魚川としてどのように捉えて、それがプラスなのかマイナスなのか、そういうことも含めたプランニングを私はやるべきだろうというふうに思います。

それからお隣、朝日町との連携強化、これはさまざまな合同企画の中において、いろいろとやるべきことはあると思うんです。ただ、この春に朝日町は町長選の選挙があるそうで、どの町長候補の方々も、やはり朝日町の駅と糸魚川駅というものをさらに強固に結んで、生活においても観光についても連携を強化したいというふうにおっしゃってございました。糸魚川としては、どのように受けとめておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

朝日町とは北アルプス日本海広域観光連携会議のメンバーの1つということで、特に朝日町については、当市と同じように海が1つの売りでもありますので、上越市ともあわせて海として観光連携も考えていきたいですし、もう1つは、ヒスイも売りにしておりますので、そういった面で連携できる場所があれば、連携していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

「トワイライトエクスプレス」のいわゆる有名なラインというのが、ちょうど朝日町からこっちは市振、親不知を通過して糸魚川付近ぐらいまでが一番きれいですね。朝日町とは鉄道を結ぶということについて、非常に深い縁があると思いますので、協力をさらに密にしていきたい。

ちょっと次に行きます。

2番の交流人口なんですが、どんな業種を観光業として指すのか、もう1回お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

観光業については、観光に関連する業種の総称を言うもので、旅行代理店等の旅行業、観光ホテルや民宿等の宿泊業、飲食業、航空会社やバス会社等の運輸業、名産品、お土産等の製造や小売業

など、極めて多岐にわたるものということで、日本の標準産業分類では、業種として分類されていないというのが現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

全国でどうやっているのかわかりませんが、前にもご紹介しましたが例えば長野県では、大町、小谷、白馬等の地域を1つのグループとして、入り込み数についてはピーク時が1,096万人、それが現在762万人で大幅な減だと。これは入り込み数ですけども、それに対して観光消費額というのもちろんと統計がとってあって、同じピーク時の平成6年には、652億円という数字が出ています。しかし、今は326億円となって約2分の1に減ってしまった。スキー客についても具体的にあって、ピーク531万人に対して、現在163万人と3分の1である。だから県としては、こうした観光振興については、これだけの予算と、これだけの施設整備をしますとやってるんです。

先ほどの渡辺重雄議員のデータ論ではありませんが、こうした1つの核となる産業としての、やはりどのぐらいの売り上げの額があって、それがどのぐらい落ち込んだから、その何割を復旧させるために、どうしなくちゃならんかと、これは具体的な行政施策の根拠になる数字だと思う。それが無いということは、どういうことなんでしょうかね。市長、これどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今ほど言われました長野県の観光消費額調査、これについては国のほうで実は実施しております、ただ、全国全ての市町村をしてるわけではなく抽出でやっております。その中で長野県については、その調査に入っているということです。

当市といたしましては1つの指標とすれば、やはり観光入り込み客数の調べと、それに伴って出てくる宿泊人数、そういったものが大きな指標となっておりますし、観光業としての調査はありませんけれども、経済センサスの中で宿泊、飲食サービス業という分類がありまして、そういう中で事業所数とか従業員数、そういったものも出ておりますので、それらも参考になる指標というふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

だから何となく人ごとに聞こえるんですね。観光産業の今、期待感は非常に大きいもんがある。しかし現実の観光産業は、皆さんやはり疲弊して、大変苦しい経営状態の中にある。その中において、じゃあ期待と、今のこの苦しいという経営状態のギャップをどう埋めてやるか。そういったこ

とについてのやはり戦略も、私は立てるべきだというふうに思っております。

仮に宿泊業、観光業関係の施設の入館者ですね。それはマリンドリームや、親不知ピアパーク、ヒスイ王国館などの売り上げと比較対象を絞り込んで、糸魚川独自の観光産業としての推移をデータ化すべきじゃないでしょうかね。例えば佐渡島が金山とカーフェリーと、こう2つの絞って観光客の入り込みを調べて構築しているように、全部を把握しようとするから難しいものでありますが、傾向をとるということであるならば抽出方式で、データをしっかりとれると思います。ここはしっかりやっていただきたい。

それから北アルプス日本海広域観光連携の具体的プラン。ロゴマークやキャッチコピーが決定したということではありますが、どのようなものであるのか、そして今後の計画はどのようなのか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

平成25年度の事業としてキャッチコピーとロゴマークということで、全国の多数の応募の中から決定のほうをしております。最終的にはポスターにして、3月16日の開業1年前イベントのときに公表のほうをさせていただきたいと思っております。

それから平成26年度に向けての戦略ということで、現在、幹事会のほうで詰めの検討をしておりますけれども、具体的な事業として首都圏での観光プロモーション、広域周遊型旅行商品の開発とモニターツアー、テレビ番組の誘致活動、ポスター、パンフレット等の作成、新幹線駅舎の関係市町村の市民見学会、開業イベントの連携、交通アクセスの検討部会の設置などを予定しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

新聞で発表になったんだから、ここで発表したっていいんじゃないですかね、キャッチコピー。16日までは言わないということなんですね、まあいいですけど。

ただ、日本海と北アルプスというこの2つの資源、これは富山県、石川県の両県でも、ほとんど同じ地形で同じコンセプトなんですよ、日本海とアルプス。それでジオパークという我々の切り札も、やっぱりそれが佐渡であったり、それから黒部立山についても今、ジオパークで猛追してますよね。そうなってくると、そういった同じような中において、何を売って何をアピールしていくかというこの差別化をどう図るかという、もっと具体的なコンセプトが必要でないかと思うんです。それはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

当市については1つの核がジオパークということで、当市の持つジオパークの特性、やはり他市にはないものということで、このジオパークの知的満足度を生かすためには、やはり1つの戦略として体験教育旅行の誘致の拡大ということで、新年度の事業でも予定しておりますけども、やはり修学旅行の誘致というのは、一度来ていただければ継続して来ていただけますし、やはりジオパークの魅力、学習、そういったものを伝えられる1つの非常に有効な手段というふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

だからイベントや企画として商品になってないんですよ。今もうデスティネーションキャンペーンが始まるというこの時期に、商品化してなくてどうするんですか、それをずっと言ってる。それもきょう初めて言ったわけじゃない、今までしつこく言ってきた。このスタートダッシュに間に合わないでないですか、何をやらしても。リゾート列車も走らない、北アルプス日本海の総称も、具体的なイメージキャラクターとか、そういうさまざまな部分を使って、どう商品展開するとか。これじゃこの1年間、何をしとったかということにならせんですか。開業に間に合うもの、あと9カ月後のダイヤ改正までに間に合わせなくちゃいけないもの、ことしの5月から始まってくるデスティネーションキャンペーンに間に合わせるもの、これがみんな全て一緒くたになって、ずっと答弁してるじゃないですか。みんな、これから、これから、これからで、いつやるんですか、間に合うんですか、これ本当に。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

商品化という、今、お話をいただきました。我々もそれを目指しておるわけですが、今、目指しているというのは、北アルプス日本海広域観光連携会議の中で、今もやはり各自治体は頑張っておるわけでありまして。これをまとめて、どういう1つの商品化をしようかというのは、今、ずっと研究しております、幹事会の中で取り組んでおります。今ようやくそのロゴマークやキャッチコピーができ上がり、そしてそれをポスターにしながら、どういう1つの商品化をしていこうかというのは、非常に今大きなところであるわけでありまして、まさしく1年前ぐらいから、やはりスタートするべきであったわけでありまして、やはり6自治体ということになると、なかなか足並みというのはそろわない部分がございます。

そういう中で、糸魚川はやはりしっかりリーダーシップをとっていきべきだろうということで、今、引きずってまいっております。我々といたしましては、なるべく早目にそれを出して、そして少なくともやはり関東・関西で大きくPRをしていきたいわけでありまして、その辺の流れも、

今、平成26年の早い時期に出していきたいということで捉えているわけでございまして、もう少しちょっと時間がかかるかもしれません。本当に6月、7月になるのかもしれませんが、何とか早目にそういったものを打ち上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

前回も、もっと糸魚川はあせるべきだということの発言もいたしました。

ただ、本当に塩の道、向こうのラインには、やっぱり先ほども言いましたが726万人、悪くてもいるんですよ。1,000万人、観光のメッカですよね。やはりそことタイアップして事業を進めていくのは私は大賛成だし、それをやるべきだと思います。じゃないと、何で越五の国に入らなかったんだ、何で糸魚川は外れたんだということの批判は免れないと思いますよ、市長。越五の国を抜けた、その意義というものをやっぱり米田市長として、これを私は示すべきだと思うんですよ。

おまんに負けたためには、おら自分でやるんだということで組んだ話じゃないですか。それだったらその結果を、やはりより積極的に私は示していただきたい。これは同じ繰り返しになりますから、これはぜひ、しかも早急にやっていただきたい。6月にまた同じ質問をするかもしれませんが、そこまでにはしっかりつくっておいていただきたい。

それからちょっと飛んで、権現荘のリニューアルと民業圧迫について。

権現荘のリニューアルにつきましては、この間、議会のほうでは、しょうがないじゃないかということで設計案が通ったわけですから、例えば100歩譲ったとしても、市長が管理代表者を務める旅館の優遇策のみで終わってしまえば、先ほども言いましたが、苦しい営業を続ける市内同業者からは不平不満が出るのは、私は当たり前なことだと思うんです。

前回の議会の賛否を問う討論の中でも、やはり市全体の商業活性化策や観光商業に関する振興策はやるべきだというのは、あの中では全会一致した意見だった。それらを受けて、どのように今後は商業振興していくのか、お聞かせをいただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

先日、糸魚川市内の旅館業、民宿業の方と説明会のほうを開催しております。やはりその中で、今、議員が指摘されたような意見が数多く出ております。

今後の対応としましては、3月議会終了後か4月上旬ぐらいにもう一度、旅館業や民宿業の方ともお話する中で、市としても何かできることがあれば、対応していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

これはやっぱり市全体の観光振興策としての取り組みが私は必要だと思います。観光誘客促進事業、宿泊施設整備補助金制度、商業施設販売促進補助金制度など、これはやるべきです。

この議会初日にやった、例の住まいる環境リフォーム事業、こちらのほうでは店舗と住居が同じところは住居エリアのみしか整備ができないとなっているんです。やっぱりこれはあわせて新幹線が来るなら、もうちょい店構えをきれいにしたいとか、外国人に対応した客室を整備したいなんていっても、使える補助金がないんですよ。だから今、言った14日の同業者の話の中でも、こういう要望はやっぱり数々出てきてる。そういったことについては、どうお答えするお考えでしょうか。

議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

午後2時02分 休憩

午後2時04分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

お答えいたします。

当課におきましては、新幹線開業を控えまして市内の企業の設備力のアップというところで、25年度から融資制度でありますけども、マイナス金利制度というものを制度化させてもらっております。それらを幅広く、皆さんにPRしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

古畑議員。

20番（古畑浩一君）

今後、さらに一步踏み込んだ形の中で、やっぱり糸魚川全体をリニューアルという考えたやり方ですね。市直営のホテルばかりよくするから周りが怒るんで、そうじゃなくて我々にはこういう制度があるし、こういう補助金もあるから皆さんもひとつ頑張ってドレスアップしていただいて、ウエルカム新幹線のキャンペーンにご協力いただきたいとか、市長、何か全体を盛り上げるような夢のある企画というのは、私、大事だと思うんですわ。

行政の直営だとか、第三セクターというところばかり何千万円も何億円も何十億円もかけて、小さくやってる商いの人たちはアベノミクスの効果も得られず、やはり苦しい体制がずっと続いている。やっぱりこういう声にも私、耳を傾けていただきたいというふうに思います。やはりみんなで、全体で、ウインウインで、本当にみんなで一緒にこの新しい新時代を迎えようという、皆さんの勇気が湧くような、そういう行政の指導を私は行っていただきたい。

ちょっと項目を残しましたが、また別の機会にやらせていただきたいと思います、例えばジオパークの構想というものは誘客、それから施設整備、交通アクセス、受け入れ体制が大きな今はネックであります。名前は売れたんですが、実利が伴わないというのが最大の欠点です。もうからなければ観光産業というものは私は発展をしないと、これまでも申し上げたとおりであります。

100年に一度あるかないかのビックチャンスと言われる北陸新幹線の開業、その停車駅になったということだけで満足せずに、新潟、富山、長野3県の結節点であり、日本海に面する地の利、高速道路、港、新幹線の交通、三種の神器を生かした拠点づくりとしてのまちづくり、これを推進していただきたい。

市内の商業者にとっては、期待より不安が大きいのが実態であります。行政トップとして、何がどう変貌し、どう対処していくのか、市民の不安感を期待感に変える。誰が見ても理解できる未来の都市像を示していただきたい。これをお願いして一般質問を終わります。

よろしく願いいたします。

議長（樋口英一君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

次に、新保峰孝議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。〔16番 新保峰孝君登壇〕

16番（新保峰孝君）

日本共産党の新保峰孝でございます。

私は救急医療、子ども・子育て新制度、市町合併に伴う戸籍、住民基本台帳事務、新幹線と並行在来線について、米田市長のお考えを伺いたいと思います。

1、救急医療について。

- (1) 救急車の出動要請があった時の対応はどのように行われるか。
- (2) 厚生連では、どこの病院も土曜日を休診にする方針とのことですが、当市の救急医療体制に影響はないか。
- (3) 限られた医師の中で救急医療体制を維持していくためには、地域内の様々な連携、専門外の場合の対応、広域連携の研究、市としての支援等、関係者間で十分検討していただく必要があるのではないか。
- (4) 根本的解決のためには、医師を増やす施策を県に対して強力求めていく必要があると思うがどうか。

2、子ども・子育て支援新制度について。

- (1) 糸魚川市子ども・子育て会議の開催、検討状況はどうか。
- (2) 現行制度と子ども・子育て支援新制度の違い、特徴、新制度の未確定部分についてどのように捉えているか。
- (3) 糸魚川市の保育園・幼稚園、地域型とよばれる保育形態の現状はどうか。5年間で60人規模の保育園が1つなくなるような出生数減が続く中では、市としての保育、教育に対する責任はますます重くなると思うがどうか。

### 3、市町合併に伴う戸籍、住民基本台帳事務について。

(1) 年金記録問題では、不適切な事務処理で多数の国民の年金受給権が侵害されました。このような行政による不適切な事務処理により市民の権利が侵害されることについて、どのように受け止め、生かしているか。

(2) 年金記録問題の際、原因の1つに紙台帳等で管理していた年金記録をコンピュータに転記する際、正確に転記されていなかったケースがあげられております。

合併に伴う3市町の戸籍、住民基本台帳統合については、どのように行われたか。横書きに切り替えたのはいつか。

(3) コンピュータ転記する際の記載事項のチェックはどのように行われたか。

(4) 法定協議会以降、合併に伴う戸籍、住民基本台帳等に関わる市民の訂正の申し入れはなかったか。

### 4、新幹線と並行在来線について。

(1) 新幹線開業、JRから経営分離される並行在来線会社の営業運行開始まで1年となりましたが、JR施設の譲渡については、どのようになっているか。

(2) 北陸線駅舎の何駅かのトイレ撤去の話も聞きますが、経過と現状についてお聞きしたい。

(3) ディーゼル・ワンマンカーは、長大トンネルでの安全性やディーゼル排ガスに含まれる有害物質の問題、広域連携の障害になることが考えられることから、将来に禍根を残すと思うがどのようにお考えか。

(4) 優等列車の運行または快速列車の運行等、沿線住民、利用者の利便性につながる課題についてはどうなっているか。

(5) 三セク新会社の経営戦略は定まったか。北陸新幹線系魚川駅停車の上下本数、運行区間、営業時間等、どうなっているか。

以上、1回目の質問といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、救急要請があれば必ず現場に出動し、傷病者に接触し、傷病者から搬送拒否がない限り、病院へ搬送します。

2点目につきましては、土曜日は市内の医療機関のほとんどが診療を行っており、糸魚川総合病院での救急医療は今までどおり実施いたしますので、影響はないと考えております。

3点目につきましては、当市の救急医療体制は糸魚川総合病院が中心となり、医師会と連携し、担っていただいております。さらに市も参加して、上越地域と富山県内の病院や新潟県、富山大学、新潟大学との連携を図っております。

4点目につきましては、県は25年度に医師・看護職員確保対策課を設置し、医師確保体制を強化しておりますが、今後も、さらに医師確保を県に強く要請してまいります。

2番目の子ども・子育て支援新体制のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしま

すので、よろしく願いいたします。

3番目の1点目につきましては、国は加入者に不利益を与えたばかりでなく、国民の信頼を損ねる事態を招いたと思っており、本市においては、そのようなことのないよう正確な事務執行に努めております。

2点目につきましては、合併前に3市町とも横書きへの切りかえを含むコンピューター化を終了いたしており、合併時には、それぞれのデータをそのまま統合いたしております。

3点目につきましては、正確なデータを作成するため入力作業を2回行い、データを突き合わせ、エラーチェックを行っております。

4点目につきましては、合併に起因しての戸籍、住民基本台帳にかかわる訂正の申し出はなかったと認識いたしております。

4番目の1点目につきましては、25年2月に県とJRで合意がなされたところでありますが、詳細についてはJR、県、えちごトキめき鉄道が協議中であります。

2点目につきましては、昨年、JR西日本から市振駅、親不知駅、梶屋敷駅のトイレを撤去したいとの連絡がありましたが、市といたしましては、同意をいたしたものではありません。

3点目につきましては、えちごトキめき鉄道では安全性を確保するための対策を計画いたしております。

4点目につきましては、優等列車の存続を県へ強く要望いたしており、県ではJRに対して存続を要請いたしているところであります。また、新駅設置などにより、利用者の利便性を確保いたしてまいりたいと考えております。

5点目につきましては、経営基本計画にあるとおり安全・安心の確保、利便性の向上と観光需要の創出についてであります。

北陸新幹線系魚川駅への停車本数や営業時間は、運行ダイヤが発表されておられませんので、今の段階ではわかりません。また、運行区間は、東京・金沢間であり、4つの運行タイプが発表されております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

教育長（竹田正光君）

新保議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、今年度は3回の会議を予定しており、現在まで2回開催しております。

会議の中では、新制度や子ども・子育て支援ニーズ調査に加え、保育園、幼稚園及び小学校の適正配置についての検討を行っております。

2点目につきましては、子育てをめぐる課題の解決に向け認定こども園制度の改善、保育園等の施設型給付や小規模保育等の地域型保育給付の充実、一時預かりなどの地域の子育て支援の充実が主な特徴となっております。

また、新制度における未確定部分は、国の子ども・子育て会議で検討しており、その動向を注視してまいります。

3 点目につきましては、年々園児が減少している中、新制度の目的や少子化を見据え、本市にとってふさわしい保育体制となるよう、子ども・子育て会議の中で検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16 番（新保峰孝君）

救急業務実施基準で、救急事故発生の通報または発生を知ったとき、消防長または消防署長は、直ちに所要の救急隊を出動させなければならないと定められております。

昨年の夏ですが、バイクでグレーチングに乗ってしまい滑って転倒、仰向けになったまま動けなくなって携帯で消防に連絡し、救急車が駆けつけた例がございました。

結果的に、股関節骨折で70日間の入院だったとのことではありますが、当然、頭を打っている可能性も考えられたと思います。このような見た感じ外傷もなく、打撲程度で大したことはないだろうと思われるケースの場合、現場に着いた後、病院への搬送はしないということはあるでしょうか。先ほどは、そういうことはないというふうなことだったんですが、判断はどのように行われているかについて、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

救急車の要請があった場合の現場における対応であります。基本的には患者が拒否をしない限りは、必ず病院に搬送するということが原則であります。また、救急救命士が現場において医師にかわって、その患者が大丈夫だとか、大丈夫でないとかという判断をすることはございません。我々は基本的には病院へきちっと運びまして、医師からご判断をいただくまでが責任範囲ということで対応しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16 番（新保峰孝君）

救急出動時の記録があると思いますが、これはどのようにされておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

1件1件について記録をきちっととり、保管をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

糸魚川消防署の救急救命士は、事務報告では昨年の3月31日現在、15名ということですが、今後の救急救命士増員の計画、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

小林消防長。〔消防長 小林 強君登壇〕

消防長（小林 強君）

基本的には、救急車には救急救命士を2人乗せて対応したいということで、今進めているところでございます。ことしにつきましても、新たに2人の救急救命士を養成するべく研修所へ通わせておりますし、来年以降も目標に達するまで毎年2名ずつ救急救命士を育ててまいりたいというふうに、計画的に進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市民の命を守るために、今後とも頑張っていただきたいと思います。

今の関連ですが、救急車で糸魚川総合病院へ運ばれ脳の検査、骨の検査もしてもらい、股関節の骨折であることがわかったそうであります。命に別状ないということで、入院させてほしいと言ったのですが、5日分の痛みどめが出ただけで、帰されたということであります。松葉づえも出なくて動けないので、娘さんが仕事から帰ってから夕方、もう一度糸魚川総合病院へ行って、入院させてほしいと頼んだのですが断られて、よしだ病院へ入院させていただいたということあります。

国の政策で病院経営も厳しくなっており、医師の過重労働状態という客観的現実が前提にあります。しかし、何とか改善できないかと思うのは病院内の連携、地域の医療機関同士の連携であります。担当された方は、整形外科の先生ではなかったとのことですが、専門医でも対応は同じだったかどうか、そういう点で違ったのではないかと疑問が残りますし、たとえ同じだとしても、医師が指示をして、地域内の医療機関同士の連携で何とか対応することができなかったものかと、そういう点があるんですけども、病院内の連携、地域の医療機関同士の連携について、どのように考えておられるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

患者さんの状況を見て医師が判断したものと考えますが、やはり患者の内容によっては、今言ったような形で連携というのも必要と思っております。今お聞きしましたことにつきましては、初めてお聞きしましたので、また内容については確認させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

いま1つ、救急外来棟ができてからの例ではありますが、脳から出血、動脈瘤があり手術された方です。

頭が痛くて我慢できなくて開業医へ行ったところ、肩からくるものだろうと言われてた。その日は帰って、さらに悪くなって、つじつまの合わないことを言うようになって、3日後の土曜日の午前、救急車で運ばれて、糸魚川総合病院で内科の先生に診てもらったと。ここでも肩からくるものだろうと、体を温めたほうがいいと言われて帰ってから風呂に入ったと。そこで倒れていたのを夫が見つけて、午後、再び糸魚川総合病院へ救急車で運ばれたと。別の内科の先生が、環境と精神的なものからきているのではないかとということで、入院させてほしいとお願いしたが、断られて帰された。吹雪の夜だったこともあり、再三お願いしたがだめだったということであります。自宅に戻って、それから一層、支離滅裂なことを言うようになり、おかしい行動をしていたと。

4日ほどしてから、土曜日の午後に診察した先生から脳外科の先生に診てもらったらどうかと、受診してくださいとの電話があったとこのこととあります。翌日、糸魚川総合病院へ行き、脳外科の先生に診てもらったと。脳の出血したところに水がたまっているということで、即入院となり、1週間後、労災病院に転院、検査で動脈瘤が見つかり、その日に手術。1カ月入院し、回復されたとのこととあります。脳外科の先生のとてきばきした処置に大変感謝されておりました。

この例では、病院内の連携に改善すべき点があるのではないかと思います。入院の権限、疑わしいことがあれば専門医と連絡をとるなどの病院内の連携については、どのようにお考えか。病院内のことなので病院にお任せするというふうなことが、それとも改善を求める場はないのか、その点についてお聞かせ願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

岩崎健康増進課長。〔健康増進課長 岩崎良之君登壇〕

健康増進課長（岩崎良之君）

救急担当につきましては、それぞれの医師の当番制で対応させていただいております。

そういう中では、今、一番医師が多いのは内科が十二、三名の先生がおりますし、次は外科の先生です。内科、外科が中心になりながら、当番医で担当させていただいております。実際、救急車で搬送された方の約6割の方は、内科関係の方になっております。その後、整形外科の方が多い、20%という現状になっております。そういう中では、基本的にはその他の診療科目の先生は待機という形になっておりますので、そういう中では、その判断、診断をする中で必要があるときは、それぞれ専門医の先生を呼ぶことになっております。今のケースにつきましても、実際連携について、私どもは必要に応じて呼ぶというふうに確認しておりますし、いま一度、その辺について確認しますし、いざというときにはどのように、入院関係についても確認をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

糸魚川市の2次救急は皆さんご承知のように、医療関係機関の協力で24時間365日体制が確保されておりますけれども、限られた医師、スタッフ、関係者の方々の奮闘で支えられております。市も救急医療には、年間9,000万円ほどの補助を出しております。そのような厳しい状況にあるからこそ病院内の連携、地域内連携、広域連携、市としての支援、関係者間の連絡、調整が重要になると思います。常に改善、進化させて、名実ともに2.5次救急となるよう、3次救急圏との広域連携も強化されるよう、市としても全力で取り組んでいただきたいと思います。いま一度お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

糸魚川市のやはり医療環境というのは、非常によくないと私も思っております。ただ、しかしながら、今ここにきて少し医師確保されたり、また看護師の確保にも活動いたしてはありますが、まだまだ十分だとは思っておりません。

そういう中において、いろんな皆さん方からご指摘いただく点がございまして、糸魚川総合病院とは、やはり医療懇談会というものがございまして、いろいろ情報を聞く中で、その中でまた我々も情報提供しながら、特に地域医療の向上に努めておる次第でございまして、医師会の皆様方とのやっぱり医療懇談会も開催させていただいて、地域医療の向上に努めていきたいと思っておりますし、いろいろな情報はいただきたいと思っております。

ただ、しかしながら厳しい環境の中で、今、医師も、また看護師もおる状況でございまして、その辺もご理解いただく中で、対応いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

糸魚川市もほかの県内の市町村に比べると、非常に力を入れて取り組んでいると思います。

医師確保、あるいは地域医療を守る体制整備に、総務省の特別交付税のそういう制度も活用されていると思いますけれども、こういうふうなものの活用と、それから根本的には、医師をふやす施策を強化するしかないと思いますので、先ほど答弁がありましたように、もっと県にもこちらのほうに力を入れてもらうよう、引き続き働きかけてもらいたいと思います。

子ども・子育て支援新制度について伺います。

国の子ども・子育て会議において新制度の検討状況、どのようになっていますか。最終的に確定しましたですか、どの辺までいってるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

今度の新しい制度では、幼稚園、保育園のあり方、また、認定こども園のあり方、また、地域における子育て支援のあり方、さまざまな施設型の給付、あるいは地域給付型の給付、いろいろあるわけですが、それを今、国の子ども・子育て会議で慎重に論議しとるところでございますが、大方は方向性は決まるとるんですが、細かい細部については、まだ国のほうで検討中でございます。それらの情報を察知しながら、糸魚川市の子ども・子育て会議の中で検討していくという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

子ども・子育て支援新制度において、幼稚園の私学助成、保育所の委託費、その他の施設型給付において財源であります。財源となる国、県、市町村の負担というのは、それぞれどういうふうになりますか。いろいろタイプはあると思うんですが、大きく分けてこの3つぐらいだと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

財源につきましては、まず、消費税増税分の2.7兆円のうち0.7兆円を、国がこれに当てるということでございます。

保育園、あるいは幼稚園の国、県、市からの助成ということですが、私立施設につきましては国が4分の2、県が4分の1、市町村が4分の1ということで、これは今までの保育園の措置費と変わりませんが、私立保育園につきましては、市町村からの委託費ということも決まっております。それから公立の施設につきましては、市町村が10分の10持ちますが、地方交付税で措置されるというふうに分まるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

新制度の特徴であります保護者に対する現金給付制度、教育・保育給付であります。実際には、どのような流れになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

施設型給付につきましては、保護者に対する個人給付を基礎といたしております。しかしながら、確実に保育等に要する費用に充てるため、保護者にかわって施設が受領する法定代理受領の仕組みとなっております。これは今度の制度では、いわゆる保育時間でございますが、保護者の就労状況によっては短くてもいいと、例えばパートタイムがあります。今、一律11時間保育ということでやっておるんですが、例えば6時間でいいとか、8時間でいいとかという保護者も出てきます。それに応じて保育の給付が個人個人違うということがありますもんですから、このような仕組みになっていくということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現行の幼稚園、保育園、幾つかに分かれるんですが、どのような名称、形態になりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えします。

現行の幼稚園、保育園につきましては、名称は今までどおり幼稚園であったり、保育園であったり、保育所であったりということになると思いますし、ただ、幼保連携型認定こども園でございますが、これにつきましては認定こども園とか、そんなような名前になるかと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

保育の必要性の認定については、どのように行われますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

保育の必要性の認定ということでございますが、保護者の申請によりまして市町村が決められた認定基準に基づきまして、必要性を認定した上で給付する仕組みになりまして、具体的な認定基準でございますが、保護者の就労状況だとか疾病だとか、いろいろな理由があるわけでございますが、それを1つの事由。

それから保育料の区分ということで、これは新たに設けられるものですが、先ほど申しましたその保護者、保護者によって就労状況が違いますので、長時間保育であったり、あるいは短時間保育であったりという時間の区分が2つ出てきます。それから優先利用ということで、ひとり親家庭や、あるいは虐待のおそれのあるケース等、それぞれまた個々に違いますので、それらを判断基準といたしまして認定すると。

主な新制度の特徴では、その事由につきましては、就労状況が今までよりも緩和される方向、あるいは求職活動中であるとか、あるいは就学であるとか、虐待、DVのおそれがあるとか、育児休業を取得する際に、育児休業をとってる者がより取りやすいような方向性、そんなような理由がふえて、預けやすくなるというのが特徴であると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現行と比べて保護者の中では保育料とか保護者負担、この点が一番気になるところでありますが、この点についてはどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

基本的には、現在の保育園、幼稚園の利用者負担の水準をもとに、国の今、子ども・子育て会議で検討中でございます。現行と大幅な相違はないと思っております。

1点だけ、先ほど申しました保育の時間がかわるということで、その保育の時間に応じた、また保育料もかわってくるということが出てくると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

現行の保育水準よりぜひ下がらないように取り組んでいただきたいと思いますのですが、この点いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

教育次長（伊奈 晃君）

これにつきましては、間違いなく今よりも下がることはないと思っておりますし、そのような方向で当市の子ども・子育て会議の中で検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

3の市町合併に伴う戸籍、住民基本台帳事務について伺います。

年金記録問題では、国民の年金受給権が侵害されたわけです。これは憲法第25条で保障されている生存権の侵害にもなるのではないかと思います。

戸籍や住民基本台帳記載事項は、その問題とは性格が違いますけれども、事務を執行する際に共通して必要なことは、それは誰のものかということ認識して行うかどうかにあるのではないかと思います。年金は誰のものか、戸籍、住民基本台帳記載事項は誰のものかということであります。この基本認識がないと、間違いを犯しやすいということになるのではないかと思います。これらの問題で、市役所による不適切な事務処理によって、名字を変えられてしまったという方の話を聞きました。

そこで伺います。戸籍法第24条では、戸籍の記載に錯誤もしくは遺漏があることを発見した場合には、市町村長は本人にその旨を通知しなければならないとあります。ここでいう原因は、本人にある場合です。通知していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

戸籍法の第24条の訂正につきましては、管轄法務局の許可を得てから職権で戸籍を訂正する方法でございますので、これについては個人への通知というものがあろうかと思います。それ以外に大多数の場合は、市町村長限りの職権で訂正するケースが多いわけでございます。事務報告書に、毎年、戸籍の訂正件数は載せておりますが、1年間に平均50件程度、9年間では440件程度ありますが、そのうちの9割は職権による軽微な訂正でございます。こちらについては、ご本人への通知というものは行っておりません。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

今言われたことですね。その後、ただしその錯誤または遺漏が市町村長の過誤によるものであるときは、この限りでないと思いますが、この場合は、市町村長の側に誤りがある場合です。この戸籍法第24条に基づいて事務の執行が行われてきたと思いますが、つまり本人に通知がない場合は、本人に原因がある戸籍記載の錯誤もしくは遺漏はないということではないかと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

市において誤りの記載を行い、それを市町村の権限で修正をするというものについては、議員のおっしゃるとおり市町村権限での修正については、ご本人への通知は行わなくてもいいという規定だと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

お話を伺った、名字を変えられてしまったという方の3代前、祖父のお父さんまでの戸籍を見せていただきました。筆頭者の方の1字が5ミリほどでしたけれども、六、七センチに拡大コピーしてみると、紛らわしい字も筆の運びもわかって、本来の名字であることがわかりました。また、ご本人の実家は長男が跡を継いだそうですが、本来の名字になっております。また、親戚が多い出身の集落で、本来の名字以外の家はありません。つまり弟さんの名字が変えられてしまい、兄弟、親戚の中で違った名字にされてしまったということです。

お聞きいたしますが、戸籍法第24条にいうところの市町村長の過誤による過誤とは、名字、氏の場合、本人が先祖代々使ってきた名字をいうのか、それとも市役所で、これが本来の名字であると判断した名字をいうのか、何を基準にして判断していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

一般的には出生時からの戸籍の連綿として、どのような文字が使われてきたかというものを判断して、決定をするわけでございます。したがって、その方が当市で出生をし、戸籍もずっと連綿として当市に戸籍がある場合には、当市の市長限りでその判断をできるわけでございますが、転籍をされて、糸魚川のほうで新たに戸籍を編製されているような方の場合、当市にその前の戸籍というものがございませんので、前の市町村役場にある戸籍から参考にさせていただき、それをもとに当市の戸籍が編製をされて、それが間違っていないかどうかの判断をするということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

職員がかわると、判断も変わるということはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

基本的には、その判断は1人で行うものではございませんで、複数の職員、さらには2次的には

係長、課長が判断をいたします。また、訂正等を行った場合には、法務局へ許可を求めて訂正を行う、あるいは家庭裁判所が決定したものに従って訂正を行うということでございますので、職員が個人で判断したということではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

氏、名字は、その方の顔のような役割を果たしているものだと思いますが、過誤、つまり誤りだとする根拠をしっかりと検証して、判断する必要があるのではないかとこのように思いますけれども、その点はどういうふうにされてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

そのとおり、氏については大変重要な事項でありますので、間違いはあってはならないというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

前に戻りますが、戸籍記載事項は誰のものだとお考えですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

個人の人権そのものでありまして、それを市町村長が保障するものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

戸籍法第107条で、やむを得ない理由によって氏名を変更しようとするときは、家庭裁判所の許可を得て届け出なければならないとあります。市の担当者がこう見えるからとの解釈で、勝手に変えられるものではありません。どう理解していますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

市の担当者が勝手にそれを、こういう文字だと読み取って戸籍を起こしたわけではございません

で、転籍前の住所地の役場の職員と十分協議をし、証拠書類を集め、決定をして作成をしたものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市役所の過誤は市役所で訂正するのが、戸籍法の趣旨ではないかと思えます。検証をしっかりとやって、市民の期待に応えられるような事務をやっていただきたいと思えます。

住民基本台帳についてお聞きいたします。

住民基本台帳法第3条には、市町村長等の責務として、常に住民基本台帳を整備し、住民に関する正確な記録が行われるように努めるとともに、住民に関する記録の管理が適正に行われるように必要な措置を講ずるよう努めなければならないとうたわれております。

私がお話を伺った先ほどの方は、1977年に運転免許をとっております。その際には、名前、本籍、住所が入った住民票が必要であります。免許証には本来の氏名が記載されております。もし本来の氏名が間違っているというのであれば、当時の三十六、七年前の職員は記録の管理を適正に行っていなかったということになりますが、いかがですか。それとも戸籍と住民基本台帳は違うので、それは別だということになりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

竹之内市民課長。〔市民課長 竹之内 豊君登壇〕

市民課長（竹之内 豊君）

住民基本台帳に使用する文字は、戸籍の文字と同一の文字を使用することになっております。

今お話のありました1977年といいますと、これは多分、当市へ転籍する前の市町村の事務ではないかというふうに思っておりますので、ちょっと検証はできません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

先ほどの方は合併前ですが、平成10年交付の老人保健法の医療受給者証、年金振込通知書も本来の氏名になっております。合併前は本来の氏名になっていた。合併前後から市役所関係のものが変わってきたということでもあります。年金記録のコンピューター転記の際、正確に転記されていなかったケースも少なからずあったとのことでもあります。氏名は本人のものであり、市役所のものではございません。しっかり検証する事務処理をしないと、市民に信頼される市役所とはならないと思えます。その点、よく考えて事務をしていただきたいと思えます。

新幹線と並行在来線について伺います。

先ほどからお話が出ておりますが、2月25日、北陸本線上りの谷浜・有間川間で特急「はくたか」6号が、架線が垂れ下がっていたため緊急停止いたしました。窓ガラスが1枚破れ、4枚ひびが入り、1人が顔にすり傷を負ったとのことでもあります。北陸本線ではトンネルが多く、維持管理

費もかかるといわれております。このような事故が起こり、果たして整備がきちんとなされているのか疑問になってまいりますが、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

事故があった点については、遺憾に思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

1年後の引き取り前に、整備に万全をしないと大変なことになるというふうに思います。施設譲渡については、県は以前の説明では、きちんと整備されたものを、必要なものを引き取るんだという説明されておりましたよね。県は三セク会社の主な出資者で、糸魚川市も出資をしております。

今、JR所有のもので、それがきちんとなっていないということは、非常にその後、困るわけですよ、先ほど質問でありましたけども、そういう点について譲渡施設の整備、その判断、どれを引き取って、どれをどうするかというのは、どこまでいってるかわかりませんが、譲渡施設の整備についてはどうなっているんでしょうか、今の段階で。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

譲渡資産については、引き渡し前までに整備をして、きちんとえちごトキめき鉄道のほうへ引き継ぐということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

ぜひきちんとして引き取っていただきたいと思います。そうでないと、後が大変でありますから。それと同時に、譲渡予定のJR施設には各駅のトイレも含まれておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には不要施設以外は在姿譲渡でありますので、今のところ含まれておると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

並行在来線会社の営業運行開始まで1年となった時点で、トイレ撤去の話が出てきた背景をどう  
いうふうにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今、JR側と話をしてお聞きしているのは、JRのほうも過去の経営の中で、JR側の要するに  
トイレの必要性の方針というものが、過去から現在に至るに従って変わってきたという話は聞いて  
おりますが、そういう中で今回の1つの、うちのほうに話があったということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

えちごトキめき鉄道株式会社は地域密着型の会社だと思いますが、北陸本線駅舎トイレは各市で  
設置管理してほしいということではないのですね、これは大丈夫なんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

これは今後、えちごトキめき鉄道との話になると思いますが、基本的に鉄道施設はえちごトキめ  
き鉄道が責任を持って管理するということになります。ただ、今言いましたように時代の流れの中  
で、今、JRが考えているトイレという鉄道施設については、これはうちが考えるものとJRが考  
えるもの。そうすると、JRはそれをえちごトキめき鉄道に引き継ぐわけですから、その辺で、今、  
全く考え方が三者で一致しとるところではございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

三者が一致していないということは、三者の中で一番大きい関係があるのは三セク会社ですよ  
ね。JRから何を引き継ぐかという段階で、この県なり三セク会社が一番大きい影響を持つと思  
うんですが、その三セク会社のほうは、このトイレの点についてはしっかりした考え方を持っている  
でしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほど市長が答弁しましたとおり、市振駅、親不知駅、それから梶屋敷駅、この3つのトイレを、今、JR西日本は事前に撤去をしたいということでもあります。

と申しますのは、この3つの駅のトイレは駅舎から構外といいますか、外にありますトイレでありまして、下水道は接続されていないという状況であります。旧来の古いトイレであるということでもあります。JR西日本としては下水道に接続していないこの古いトイレにつきましては、えちごトキめき鉄道のほうへは引き継げないだろうということで、じゃあ撤去をしたいということでもあります。それからえちごトキめき鉄道のほうも現在のこの古いトイレでは、引き継ぎたくないということでもあります。そういうことでその間に入って、今、市は大変苦労してるというのが実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

市では交流人口の拡大ということで、こちらに大変力を入れているわけでありまして、在来線駅舎トイレというのでも駅を利用する方はもちろんでありますけれども、そうでない方も、糸魚川市を訪れた方が利用するというのもあり得るわけですね。そうなった場合に、今ほどJR西日本と、それから三セク鉄道の側で考え方が、それぞれの思惑でいろいろされてるんでしょうけども、やはり一番そうなってくると大事になってくるのは市ではないですか。糸魚川市がどういう位置づけで、このトイレが必要なんだと。このトイレは、こうしてもらわなければならないということになってくるのではないかと思うんですが、その点についてはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

新保議員のご指摘によれば、必要なものはつくれという形になるようになるわけではあります、我々といたしましてはそういうことのないように、やはり施設の中に設置していただくことが、一番大事なかなということで考えておるわけではあります。そのようなことで、トイレというのは必要であるわけですが、公衆トイレをじゃあ考えればいいのかということもあるわけではあります、あくまでもやはり駅に必要な施設ということで、我々はお願ひしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

施設内につくるというと、これから新しくきちんとつくっていただくということになりますが、そういうふうになるとしても、今の先ほど伺ったようなJR西日本と三セク会社のほうの考え方は、なかなか折り合いがつかないんじゃないですか。それとも三セク会社は、自分たちでじゃあつくりましょうと、JRさん協力してくださいというふうに言うように、市でもそうもっていくお考

えはあるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから今の段階では要望なり、またお願いをしてる段階でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

これは三セク会社をやっているところでは、いろんな地域の方の協力で掃除とか、そういうふうないろんなことで協力しながらやっているというのは聞いたり、見せてもらったりしておりますが、その引き継ぐ前のこの段階で、やはりきちんと市の考え方をはっきりして交渉なり話をする必要があると思うんですよね。ですから今が一番大事な時期でないかなというふうに思います。どちらも、それはJR西日本は引き継ぐものであるから、自分たちの所有のときにその施設をどういうふうにしようかと言ったら、ちょっと言い過ぎになるかもわかりませんが、自分たちのほうで、引き継ぐ三セク会社のほうがそう言っているのであれば、それはもう撤去してしまおうというふうになりやすいんじゃないかと思うんですよ。

しかし、施設内であろうが、施設外であろうが、やはりここにトイレを設置しておいてもらいたいというので、やはりきちんとやっていていただきたいと思いますね。市振、親不知、梶屋敷、あるいはこれだけじゃないかもわかりません。そういうトイレの撤去などということのないように、ぜひしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

何度もお答えさせていただいておりますが、やはり我々といたしましては今の段階では、引き続き新しいトイレにかえていただくか、現状で残していただくか、どちらかだろうと思ってるわけですが、しかし、やはり利用客の問題等も出てきておるわけですが、なかなか難しい状況にあります。そういう中で我々は何とかしてでも、やはりどちらかで判断をして設置いただきたいと思います。そのようなことで、要望していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

新保議員。

16番（新保峰孝君）

それぞれの地域で歴史があるわけでありまして、市振にしても、親不知にしてもそういう歴史的な、糸魚川市が交流人口の拡大と言っている、そういう点でも大変大事なところではないかと

思います。そういう点も含めて、ぜひ市の考えが通るように頑張って取り組んでいただきたいと思います。

以上で、私の質問を終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、新保議員の質問が終わりました。

ここで15時20分まで休憩いたします。

午後3時05分 休憩

午後3時20分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。〔19番 五十嵐健一郎君登壇〕

19番（五十嵐健一郎君）

奴奈川クラブの五十嵐健一郎です。

事前に通告してありますので、第1回目の質問をさせていただきます。

1、農林水産業の振興についてであります。

国の攻めの農林水産業のための農政の改革方向が示され、その中で糸魚川市でも市長が初日の予算の説明の中で、日本型直接支払制度、農業の多面的な機能を維持するため農村地域の資源保全や活動支援に新たな取り組みとともに、糸魚川ブランド推奨事業や地産地消推進店認定など、食の魅力を向上させる取り組みを新たに進めてまいります。林業振興では、林道や作業道整備をはじめ計画的な造林、間伐等を促進するため、新たに間伐講習事業を実施します。水産振興では、親不知漁港の施設機能診断を新たに実施し、機能保全対策の計画を策定するとともに、沿岸及び内水面において稚魚等の放流助成を継続してまいります。

また、平成25年度から進めている元気な1次産業を目指した関係団体の懇談会を継続開催し、若い担い手の定住と活躍を推進する取り組みを連携して実施してまいりますと米田市長は発表されました。

そこで以下、具体的にお伺いいたします。

(1) 農業の振興。

担い手の育成と経営の安定。

地元産食材の消費拡大。

農業生産基盤整備の推進。

多面的機能支払事業について。

(2) 林業の振興。

担い手の育成と経営の安定。  
地元産木材の利用拡大。  
森林整備の促進。

(3) 水産業の振興。

担い手の育成と経営の安定。  
地元産食材の消費拡大。  
漁港施設整備等の推進。

(4) 共通施策について。

食の魅力向上事業について。  
海の魅力アップ推進事業について。  
体験教育旅行誘致促進事業について。  
地域プロジェクトモデル事業について。  
市としての独自策について。

2、糸魚川市新エネルギービジョンについてであります。

糸魚川市では平成15年3月に、糸魚川地域新エネルギービジョンを策定し、平成16年2月に、能生町新エネルギービジョンを策定し、今日まで新エネルギーの取り組みを推進してきた結果、市内には公共、民間を合わせて出力5万キロワット以上もの新エネルギーの由来の発電設備が導入され、豊富な森林資源を利用した熱利用も導入が進んできました。

平成23年3月11日、東日本大震災の発生により原子力発電に依存したエネルギー需給体制の見直しや、平成24年7月に、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が開始され、平成25年11月には、将来的な電力小売業の自由化と、発電・送電部門を分離する電気事業法の改正案が成立し、新エネルギーの導入促進に向けた法制度も拡充されつつあります。

世界ジオパークの再認定や、平成27年の北陸新幹線の開業も控え、豊富な地域資源のさらなる活用や、市内外から訪れる人々に対してのPRとしての導入促進が期待されます。そこで、ようやく新エネルギービジョン案が1月31日に環境審議会に示されてきました。

そこで以下、具体的にお伺いします。

(1) 新エネルギー導入促進のための取り組みについて。

新エネルギー導入方針。  
新エネルギー導入プロジェクト。

(2) 推進体制と実施対象の拡大について。

以上、1回目といたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、各種助成制度や融資制度により担い手の育成と生産コストの削減を推進し、経営の安定化に取り組んでいるところであります。

2つ目につきましては、米以外の農産物の生産拡大や直売所の開設支援、利用促進等に努めております。

3つ目につきましては、効率的な作業とコスト削減をする上でも必要な事業と捉えており、地域の特性に合った事業の推進に努めてまいります。

4つ目につきましては、伊井澤議員のご質問にもお答えしたとおり、取り組み地区の拡大に向けて取り組んでおります。

2点目の1つ目と3つ目につきましては、集約化と間伐の推進による林業経営の安定化と、雇用の拡大に努めてまいります。

2つ目につきましては、地元材のよさをPRし、建築材としては使えない地元材については、木質ペレットへの活用を促進してまいります。

3点目の1つ目につきましては、担い手の育成確保に努めるとともに、漁業者の所得向上やコスト削減の取り組みを支援してまいります。

2つ目につきましては、なりわいネットワーク等で消費拡大につながるよう支援してまいります。

3つ目につきましては、引き続き水産物供給基地としての機能保全を図ってまいります。

4点目の1つ目につきましては、糸魚川産品の認定制度や地産地消推進店制度等に取り組んでまいります。

2つ目につきましては、海の魅力アップを検討する中で、水産事業者のご意見をお聞きしたいと考えております。

3つ目につきましては、農林水産事業者と連携した体験旅行等を誘致してまいります。

4つ目につきましては、新年度は市が実施主体となり、移住、定住の促進に取り組みたいと考えております。

5つ目につきましては、元気な1次産業を目標に、若い担い手の定住を促進するため、新規就労支援メニューの充実と周知に取り組んでまいります。

2番目の1点目の1つ目につきましては、市民、事業者、行政等の各主体が新エネルギーを導入する際の指針について、新エネルギービジョンの中で示してまいります。

2つ目につきましては、新エネルギーの導入可能性を評価し、その可能性の高いものから取り組んでまいります。

2点目につきましては、庁内委員会を設置し取り組むとともに、可能性調査を進める中で検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

一般質問の初め金曜日に、伊井澤副議長より質問と重なりましたので、あんまり言うことはありませんが、せっかくですのでお聞きしたいと思っております。伊井澤副議長は、国の方針を言っておられました、確認も含めてありましたが、本当に国から示された政策、攻めの農業ということで中身

を見ると、私から言わせると中山間地、ちょっとだめになるのではないかとということが心配されております。離農も多くなったり、高齢者が多い世帯、それで機械を更新するということになれば、その際にやめるということも聞いております。

そこで本当に5年先、どうなるかわかりませんが、それを解消するためにはどうしたらいいかということで地区別に、金曜日にもありましたが、人・農地プランのほかにも協定をやられてる。そのほかにも説明会に入るといことなんですが、具体的にそのほかというのは、どの辺まで説明会に入るのか、その期限も教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

一般質問の1日目の伊井澤議員のご質問にもお答えいたしましたけれども、戦後40年間続いてきた農政の制度が大きく変わろうとしております。考え方の1つには産業としての政策、これは報道でもありますけども、中間管理機構をつくって農地の集約化を図り生産コストを下げて、効率のいい農業にという部分と、もう1点は地域政策でございまして、これは特に当市に影響してくると思いますけども、中山間地域を多く抱える、また兼業農家が多い地域で、どのように農業経営をしていくかという部分に対しての国のいろんな施策が反映されておると思っております。

国でも県でも現状の米の単価、それから制度をフルに活用した場合に、農業の所得がそんなに下がらないよというふうな報道もされておるわけでありまして、私どもとしましても今回示されました、日本型直接払いをはじめとしたいろんな補助制度をフルに活用していただけるように、人・農地プランで今取り組んでいただける地域はできるだけ継続、また、取り組んでいただいてない地区についても新規に加入していただくというふうなことで、今までも説明会を開催してきているところでございます。

昨年12月には新しい制度で、能生マリンホールでもって勉強会もしましたけども、そのような勉強会も含めて、今後、地元のほうへきめ細かく説明に伺いまして、制度を理解し、フルに活用してもらえるように努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

そこで、人・農地プランが22協定、中山間地が39協定、そこに取り組んでないところも説明に入るということで、具体的に新制度についても事務量とか手続については簡素化されるのかどうか、その辺、お伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

中山間地域の直払いの協定が39でございまして、農地・水が22協定でございまして。この2つ

の制度に取り組んでない地域にも積極的に加入するように、今、利用してない地区にも入り込んで説明をしておるところであります。

以上であります。

失礼いたしました。今、この中山間地域も農地・水も取り組んでいただいとるわけでありませうけれども、やはり高齢化、過疎化してきている地域では事務が大変負担になってきておるといふ状況をお聞きしとるところでございます。

できるだけ自分たちでやれるところはやっていただいて、行政がどの部分をお手伝いしていけばいいかということになるかと思っております。1つには、できるだけ事務を簡素化、広域的に取り組んで簡素化することも1つの手でないかと思っております、その点につきましては地元と、また、あるいは農協と、今、検討させてもらつとる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう方々も含めてやっぱり役所とか行政におつた方々とか、なかなかパソコンやいろいろな形で事務になれてない方もおるんで、そういう方々を絞ったりして、広域化も含めて一本化をぜひしていただきたいと、こう思っております。

その中で耕作放棄地が、今どれだけあるのかと、65歳以上が8割、82%だそうですね。糸魚川では4ヘクタール未満が98%、やっぱり高齢化も激しいので小さい田んぼ、小規模の方々がいっぱいなんで、本当に聞くと、さっきも言いましたが、大規模農家になれば平場で固めて集約すればいいですが、また、コンバインになると大型化のは1,700万円ぐらいするそうなんです。小さいところは入れないし、棚田とかそういうところをどうやっていけばいいのかというのは、本当にわからんと思うんですが。

畑も耕作放棄地を耕して作物つくっておられる方々もおられるんですが、それも高齢化されておつて、市場も今ちょっと作物が集まらない状態で、今後どうすればいいかというのを本当に聞かされてるんですが、その辺も含めて田んぼもやれ、複合経営もやっていけて、この攻めの農業ではやっておるんですが、その辺、耕作放棄地も含めてちょっと教えていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

耕作放棄地でありますけれども、全国的には滋賀県の面積に匹敵するほどの耕作放棄地が日本全国にあるわけでありませう。市内では2010年の農林業センサスでは、416ヘクタールが耕作放棄地となっております。今回、五十嵐議員のほうからは農業、林業、水産業ということで、1次産業についてのご質問をいただいておりますけれども、昨年度、この1次産業にかかわります各関係のトップと糸魚川市長、それから地域振興局長を含めまして、トップでもって1次産業を元気にしようというふうな会議を、トップ会談をさせてもらつてるところであります。

いろいろと農業、林業、水産業の中では関係してまいりますので、お互いが手を携えるところは、どのように携えればいいのかというふうなことも含めて、25年度詰めてきております。その詰めた結果、市長の予算説明の中にも盛り込んでいただいたわけでありませうけれども、特に耕作放棄地につきましては、中山間地域の直払いの第3ステージが26年度で切れまうことから、地域のほうは27年度以降の第4ステージについての協定を、少し難しいよというふうな地域も出てきておるわけでございます。

それは1つには、耕作放棄地をどのように利用拡大していけばいいことにつながるんだろうと思っております。新しい園芸作物に耕作をするのも1つの手だろうと思っておりますけれども、できるだけ中山間地域の高齢の農業者の皆さんには、今までつくり、なれ親しんできた作物を、できるだけ耕作放棄地に取り組んでいただけるような、そんなことを今考えてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当に耕作放棄地が416ヘクタールですか、それをいかにして、もう5年後もすれば、もっとふえると思うんで、それをいかにふやさないように取り組むためには、本当にいろいろな形で市独自の、今度は国、県の力をお借りしながら市独自として、中山間地が多いんですから、どうすればいいかというのを本当に考えていかなければならない。やっぱり危機意識を持ってやっていかないとと思うんです。

平場でやってる大規模農家が中山間地に入れるかというたら、本当に入れないと私は思っているんですが、そういう方々もどンドンふやして、会社組織、法人組織を人数ふやしていけば、中山間地に入っていけるんでしょうけど、私はやっぱりそれも集団化というか、それぞれの1つずつが強化して、また固まって連携していけるような形も必要だと思いますし、やっぱり若手を育ててもらわないと、今、企業戦士でやってれば土・日、親から言われてもやらない方々もいます。それも必要ですし、やっぱり違うところから、糸魚川市外から呼ぶことも必要なんではないかということで、予算にも出てますが、やっぱりそういう方々を大々的に募集するか、冬は雪降りますが、それは違うところで勤めてもらうとかいろいろな形で、そういうところまでやっぱり危機意識を持っていただきたいんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

昨年度つくりました人・農地プラン、先週の伊井澤議員のご質問にもお答えいたしましたけれども14プランございます。その中で中心経営体として、そのプランの中で位置づけられました認定農業者が81でございます。法人が9、一般の方が92というふうなことで、人・農地プランの中では、その地域ごとの農業の担い手というものが、そのような数でまとめられておるところであります。

その中で新規就農というお話でございますけれども、全国的には2012年で5万6,000人ほ

どの新規就農者がおられますけども、約半数が60歳以上ということでございます。当市におきましても新規就農、新規就業でございますけども、やはり農家の息子さんであったりというふうな部分が多くなってきております。

それから、ここ最近でございますけども、農協の皆さんが地域農業の担い手の皆さんとの意見交換会という場に私どもも出席をさせていただきました。私は能生谷の懇談会に出させていただきますわけでありまして、意見交換に入る前に農家の皆さんが、それぞれ自己紹介をされるわけでありまして、自己紹介の中で、私はあともう5年したらやれるかなというふうな自己紹介をされる方が大半でございました。そういう方々が、今それぞれの地域の農業の担い手になっておられるわけでございます。

そういうことから考えましても、今まで取り組んできた担い手対策といえますのは、地域で中心的に取り組んでいただいている農家の皆さんに、農地をいかに集積するかということに取り組んできたわけでありまして、もうそろそろ市外から糸魚川市で農業を営みませんかというふうな受け入れを、PRをしていく必要がある時期にもう来てるなと思っております。

ジオパークの大地で、恵まれた地形の中で農業を、また、あるいは林業に携わったり、水産業に携わったりしながら生活をつくり上げていくというふうなことも含めた情報発信をして、就業者を呼び受けるということを進めていく必要があるのかなと思っております。これは企画財政課が取り組んでおります移住、定住対策にもつながることではありますけども、そこら辺につきましては、しっかりと26年度、情報発信をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

今、斉藤課長は農・林・水3つ、第1次産業全体のことも言っていただきましたが、本当にブランド化、それと認証制度を確立していただきたいと思うんですわ。農業もみんな、林業も水産業もそういんですが、やっぱりブランド化して、糸魚川の食というのは本当にぜひそれで発信して、直接売るとかいろいろな形で方法を考えて、流通経路も変えていってもらうのも必要だと思うんですわ。

そういう取組で、もうかる農業、ど素人集団の農業革命ということで、トップリバーが直接、農地は全てレンタルで、生産部門のほかに営業部門、やっぱり300人やっとれば200人が営業部門だそうなんです。やっぱりそういうのを入れながらやっていかないと、農業はビジネス、農林水産業もビジネス化をしていく糸魚川になってもらいたいんですわ。やっぱりそうやっていかないと、契約したのをつくるんだそうです。そのぐらいのビジネスでないと、農業はもうからないそうなんです。中山間地をどうやるかもなかなか難しいんですが、やっぱりそういう、保坂 悟議員もありましたがクリをつくったり、本当にこの7谷ある中でどこの土、土壌分析しながらどの谷には何がいいのか、やっぱりその辺まで分析して何をつくってもらうとか、それがやっぱり農協並びに、今、元気な第1次産業になると思うんですが、その辺のやっぱりそこまで考えたチーム農林水産業にしてもらいたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

五十嵐議員のご提案というのは、非常に心強いことを感じるわけでありますが、しかし、冒頭にも質問の中にありましたように事務処理もできない、何とかしてくれというような状況のほうが結構多くて、そういう中で農地を持っておられる方々がやる気がなくなってきとる分について、非常に我々はちょっと危惧するわけであります。全てＪＡや行政ができるものではありません。まずは、やはり真剣に捉えていただかなければいけないわけございまして、もう今、やはり自立していく農家は、もうどんどんどんどんふえております。

そういう中で、しかし我々の中山間地域農業は経営ができるかということと水路、農道という、やはりこの共有するものがあるわけでありまして、共有の施設をどう管理していくのかというのが非常に課題になってまいります。そういうときに地域農業、そしてまた公共性の強いもので何かという形になっていくんだと思うんですが、そういう人たちはじゃあどういう形で集まっていたのか、なかなか非常に難しい部分であります。

ですから專業農家は、これからある程度自立できる今元気を持っておられて、また、それに対しても支援もできると思うんですが、そうでないところをどのようにしていくかというのは、非常に難しいところであります。ただ単に行政、ＪＡだけでできるものではないというのが、今の現状であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

本当に中山間地、棚田、先進地を見るとオーナー制度。棚田を買ってもらって、1年分の契約したりとか、佐渡でもトキが住む棚田とか、やっぱり糸魚川ならカワセミの住む棚田づくり、市民農園。そういうのも。市民農園のオーナー制度とか、いろいろの工夫があると思うんです。

出てきてる修学旅行を、今、聖学院だけでなく、いろいろな形で募集すると。その辺の具体的な学校の修学旅行とか、今、契約とか成立、新年度に入ってうれしい話はないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは、やはり農地の所有者が、どういう形であるのかということを考えていきたいと思っております。そしてその地域が、自分たちの地域をどのようにもっていくか。やはり農村の原風景をしっかりと維持していこうというような気持ちの中で、地域全体でどういう熱意を持って当たっていくかという、やはり地域づくりプランというものをしっかりと立てていただくことが、先だろうと思うわけであります。

農家だけで、できるものではないだろうと思っております。そういう形で地域はどのような方向でいくか、じゃあ空いた農地はどうすればいいのかという、全体で考えてもらわなければいけないと思っております。そうしないと一部の農家だけで、農地だけでできるわけではございません。そういうところでやはり我々は最低限、地域で自分たちのふるさとをどう捉えていくのかというのをみんな考えていただいて、結果的には、農家が頑張るところになるんだろうと思いますし、また、それに対して地元の住民や、また、行政やＪＡが支援できるわけでありますので、そうしないと、やはり最後は土地の権利というのが非常に大きく問題になるわけであります。地域を描くには、農地を持っている皆様も、やはりしっかり理解してもらえようような状況を全体で作り上げてから動いていかないと、ただ単に、こういう考え方がある、ああいう考え方がある、よそではこういう成果があるじゃないかと言っても、なかなか私は難しいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

この国の農政改革は今説明しておりますが、手を挙げるのは、締め切りが4月中旬なんではないんですか。やっぱり急がないと地域づくりプラン、1年後、2年後になったとか、それじゃ遅いと思うんです。4月中旬に手を挙げんならんです、それに参加するかどうか、もうはいすごい迫られている。だから今、市全体に説明会しとるんで、ぜひその辺は丁寧に、将来も含めた中で説明していただきたいと思っておりますし、国の制度は農地中間管理機構というのを創設して、借り受けをしっかりと見守る。

次、林業にも結びついていくんですが、林業も一緒にその辺の森林組合も含めて、その辺でやっぱり中間管理機構みたいなのを、私はつくれば良いと思うんですわ、糸魚川市で。森林組合が中心になると思うんですが、やっぱり地域に入って、それで説明会も開きながら、ここの土地は誰のものなのかって、GPS、GISでやりながら決めて集団化する。それも林業にも私は必要だと思うんですが、その辺の取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

やはり今、市長が答弁申し上げましたとおり土地の所有者、畑も山林もそうですけども、土地の所有者が、いかに自分の土地をどうしようかというところを、しっかりと考えていただかなければならないと思っております。

農地中間管理機構につきましても、貸し手、受け手のその中間に機構が入るわけでありますけども、今の計画でいきますと経営配分計画というふうなものを市町村がつくって、貸し手、受け手がスムーズにいくような計画を、作り上げていくというふうな構想になっているわけでありますけども、そのポイントは、やはり地域での話し合いが一番だろうというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番(五十嵐健一郎君)

話し合いが大切ですし、今、個々の土地所有者も決断を迫られているところでありまして、やっぱり早目にそういう形で浸透していってもらえるような積極的な話し合いをしていただきたいと、こう思っております。

それで25年の9月に大滝議員も質問されている放山線ですね。これも道路つくって林業できるような総合利用計画をコンサルタントに委託されとると。その辺も含めて県も市も関係森林組合、民間団体も含めて、今どんな状況か、どういうめどに総合利用計画を立てるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

県営で取り組んでいただいております林道放山線、その総合利用計画を今年度、予算をいただいております。今まで都合6回、開催をさせていただいております。メンバーには民間の温泉の皆さん、あるいは大きな森林所有者、県の地域振興局を含めまして協議会を進めさせてもらっておりまして、総合計画の大詰めに、今、入っておるところであります。

25年度におきましては、県と市が一体となりまして、早川谷が一望できます展望台の整備も取り組みをさせていただいたわけでありまして、そのようなハードとソフトを含めた総合利用計画の最終の調整段階に入っておるといった状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

五十嵐議員。

19番(五十嵐健一郎君)

いろいろな形で林道を整備されるところを、やっぱり間伐やいろんな形で必要で、今、全体で6,000平米ぐらい間伐が必要だと言われておるんですが、この辺のやっぱり施業を平成22年度から今年度、25年度ぐらいまで、どのぐらい今取り組まれているのか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長(樋口英一君)

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長(齊藤 孝君)

今、手元に23年と24年の造林事業の内訳がございまして。平成23年では111ヘクタール、このうち森林組合が受託をして造林をしておりますのが73ヘクタールでございます。それから24年度でございますけれども、造林の事業面積が109ヘクタール、それから森林組合が受託して造林しておりますのが79ヘクタールでありますので、23年と24年の間では6ヘクタールほどの造林の事業量はふえておるといった状況でございます。25年につきましては、今、集計中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

いろいろな形で6,000ヘクタール、まだ間伐が必要なのは残ってる。26年生と60年生までの間が間伐が必要だと言われてる。それが6,000ヘクタール、間伐が必要だと言われてる。

それでやっぱり本当に集落の座談会を含めて森林所有者への働きかけ、境界線を森林のGIS、GPSを使いながらやっていくと。これで境界が明確になるんで、ぜひ現地調査も含めて集団化して、どんどんやっていただきたいと、こう思っておりますし、森林の経営計画も策定してやっていくとすばらしい。

やっぱり森林も物語、葛巻みたいにすばらしい環境、糸魚川市へ来たらジオパークもいいですが、山もきれいだ、林もきれいだ、農地もきれいだ。その辺もやっぱり、そこが第一なんだから、ぜひお願いしたいと思いますが、森林経営計画作成はどの辺、大体22年、23年はどのぐらいまで経営計画が立てられてるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

糸魚川市森林整備計画、キャッチフレーズが「人とジオパークの希望ある森づくり」というふうなキャッチフレーズで、23年4月に森林整備計画をつくらせていただきました。この整備計画の変更の中には、今まで森林の施業計画でよかったものが、森林経営計画をつくらないと、国、県の補助制度が利用できないというふうな縛りが入ってきたわけであります。

そのような中、24年と25年の森林経営計画の作成の状況でございますけども、24年では大きく2団地、地区名は省略させていただきますけども87ヘクタール、25年でも2地区、173ヘクタール、2年間のトータルで261ヘクタールの森林経営計画を作成をしていただいとるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

そこで12月26日に、農業、林業、水産業の方々も一緒になって、市長と懇談してると思うんですが、その中で、どんな林業に対しては意見あったんでしょうか。それをどう進めていこうしてるのか、チーム農林水産業はどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

元気な1次産業を目指しまして、農業、林業、水産業、これ我々は仮称ではありますけども、チ

ーム系魚川・農林水産部門というふうにな名前をつけて、昨年1年間、取り組んでまいりました。

林業の中では、やはりさっき言いました造林の事業はふえてはきておるんですけども、冬場の就労の事業量がなかなか確保できないというふうなことも森林組合のほうで抱える問題だと思っております。

また、森林組合におきましては、森林施業以外に加工場も持っておりますので、それらは今度、農業との連携の中で、加工食品ができないかというふうな話し合いも出てきておりました、これはまさしく1次産業全員がテーブルについて連携をした、話し合いの結果でないかなと思っております。そのほかにも水産業の関係でも農業との連携、林業との連携、そのような話が出てきておりました、まさしくチーム系魚川市の農林水産部門で取り組んできた成果が、話し合いの中で出てきているなというふうに考えております。

特に、会議の中では問題、課題を出すよりも、何が取り組めるかというところを重点に置いて話をさせてきてもらったつもりでありまして、それらの事業整理を今してありまして、早急に取り組めるもの、もう少し時間が必要なもの等の仕分けをさせてもらってるところであります。

先ほど五十嵐議員から言われましたように、やはりそういう中においては若い就農の皆さんを系魚川にどう呼び寄せて、地域農業、または地域づくりの担い手として活躍いただけるかという人材の誘致にも、しっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

木質ペレット工場もできておりますし、やっぱりそこだけでなく木質バイオマスも新規に建てれるぐらいの、市全体でも86%が森林なんで、ぜひその辺も含めて頑張っていたきたいと思えますし。ブランド化ですね、新潟スギがブランド化になってるかわかりませんが、ブランド化できるような冬場でも強い、何か林業ではできないんでしょうか。やっぱりそれも必要だと思いますし、認証も取得できるような形が一番いいんじゃないかと思っておりますし、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

系魚川の食のブランド認定制度、それから地産地消推進店の認証制度、この2つにつきましては、26年度の当初予算の中でもお願いをさせてもらってるところでありますけども、事前に飲食店組合等も含めまして検討させてもらってきておるところであります。

特に交流人口拡大の中では、食、文化が非常に注目されとるわけでございます。系魚川では非常においしい食べ物があるよね、おいしい魚があるよねというふうに言われながらも、今後、交流人口が拡大されたときに、いかに地元のものを見えるように提供できるかということにおきましては、地元産のものを提供しているお店を、どのようにPRしていくかというところでないかなというふうに考えております。

最近ですけども、市内の飲食店でもお品書きをつけて、地元の材料を使って食べ物を提供してくださっている、そんなお店も見受けられるようになりました。また、あわせて先般、地酒で乾杯宣言もされたわけでありまして、地酒と糸魚川の食をフェアで内外に情報発信をして、交流人口の拡大に努めていかななくてはならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ第1次産業が頑張れば2次、3次、6次産業も頑張れる。いろんな形で波及効果が出ると思うんで、第1次産業は大切だと思いますし、水産業のほうで組合員数が減って、取扱数量も減っている、金額も減っているんですが、その中で組合員数の中で65歳以上がどれだけおられるか、ちょっとお伺いしたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

2008年の漁業センサスの数字がございます。上越漁業協同組合では、218名の漁業就業者の方がおられます。そのうち65歳以上が88名であります。5年前の2003年では、総就業者が259名で、65歳以上が105名でありました。ただし上越漁協は、非常に県内でも若手の漁業就業者が多いということで、県のほうからも評価をいただいております。

15歳から44歳までの青年層の割合ですけども、平成20年のデータで申し上げますと、県では12%、上越漁協では27%というふうなことでございます。それから45歳から65歳までの割合でありますけども、県では89%、糸魚川では72%でありますので、県内でも非常に若い漁業の就労者がおられるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

若手の方々もかなりおられると、頑張っておられるんで、ちょうど糸魚川市水産振興計画、これが26年3月で切れるんですね。この取り組み、次の計画はどうするんか、そのめど。若手がやっぱり入っているんだから、また市外からも呼ぶとか、いろいろな形で水産業も頑張れば、山と潤いできるような林、森を植える、森人とかありますが、ぜひそういう形でもやっていただきたいと思うんですが、その辺の計画は、どういうふうになっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今、議員お話のありました水産振興計画が、この3月31日で切れることになっております。引

き続き、振興計画をつくる必要があるわけでありまして、今まで上越漁協におきましては水産加工場、それから新たな冷凍設備を入れたわけでございますし、また、先ほど申し上げましたように、若手の漁業の就業者もあるということ等も含めながら、新たなビジョンをつくっていきたいというふうに考えております。今のところ、まだどのような構想でもっていかということ、今ちょっとここではお話できませんけれども、昨年1年間、元気な1次産業で農林水産部門が一堂に会して話し合いをしてきたわけでありまして、その中で出てきた意見、また、具体的な事業をビジョンの中に取り組みでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ水産物のブランド化も含めて加工品の開発ですね、海洋高校とも結びついてかなりやっているんですが、海洋高校だけでなく白嶺高校、糸魚川高校も含めて3つの高校で、4つの中学がありますので、第1次産業も含めてやっぱり手伝っていただけるような、何か体験だけでなくほしいなと思ってるんですわ。

かなり高校でも地元定着がされてるとい、大学出ても地元志向もあるそうなので、やっぱり第1次産業もやっていただけるような方々、兼業でやっていただけるような方々もUターンもしていただきたいし、さっき言われた移住ですね、糸魚川市以外からも募集できるような体制づくりもしていただきたいと、こう思っておりますし、未利用魚のみそ味とか、塩味、カレー味、しょうゆ味、何かそういうのも必要だなということもお聞かせ願っておりますし、保坂議員の中で東西文化の分岐点の糸魚川を生かした販売手法、ハイブリッド販売だそうなんです、どん兵衛が東西、味が違うとか、プリとサケ、ちょうど糸魚川は真ん中なんで、餅も丸と角、その両方を売るハイブリッド販売というのを、そういうインターネットで見れば出てくるそうなんです、そういうのもやっぱりいろいろな形で販売手法を考えながら、いろいろとやっていただきたいと思っておりますし、インターネットでどんどん販売もいろいろ可能だと思うんで、ぜひお願いしたいと思っております。

それと先ほどありましたが、移住の関係で「i j u i n f o」って、農林漁業就業情報誌というのがあそうなんですよね。これに糸魚川は登録して、ぜひ農林水産業もあるんだから、糸魚川がアピールする絶好のチャンスだと思うんです。この辺は今載ってますか、今後どうしようとしてるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、議員のお話のありましたその冊子は、ちょっと存じておりませんが、先ほどの答弁の中でもご説明しましたけど、今後やはり外に向けて、ジオパークの大地で農業、林業、水産業、移住して定住しませんかというふうなことの情報発信をどんどんしていく中においては、そのような冊子もどんどん利用していく必要もあるかと思っておりますし、また、首都圏のほうへ出向いて就農PRもしていきたいと思っております。

また、3月には市内で求人説明会もあるわけでありまして、この3月の求人説明会には、市内の農業法人も出ていただけということになりましたので、1次産業の団体の皆さんも意識が少し変わってきてるかなというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

この「i j u i n f o」だけでなく、いろいろな雑誌があると思うんですね。「JOIN」という日本移住交流ナビ、その中にも糸魚川のものも入っているんですが、それに農林水産業はないんですね。ぜひそういうのも入れていただきたいし、北海道の北見市では農地を確保して、就農した方に経営補助金として毎月5万円、最低24万円までやると。いろいろな形が出ております。やっぱり新しい若い人を呼ぶとなれば、そのぐらいのお土産とか、やっぱり現金だと思います。いろいろな形が必要だと思いますし、ぜひそういうのも取り組んでいただきたいと思っております。

先ほど修学旅行で古畑議員の中であつたんですが、修学旅行、本当にいろいろな形でやって、6月とか7月に取り組むって、ちょっと遅いんじゃないですか。やっぱり関東方面、関西方面も含めて、全国募集も含めてぜひ必要だと思うんですが、九州からかなり白馬とか来とるらしいし、スキーだけでなくいろいろな形が必要だと思うんですが、その取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり我々は持続可能な交流人口拡大ということになってきますと体験学習、そしてまた研修旅行、また修学旅行、そういうものが非常に有効になるわけでありまして、それはこれから長きに伝わっていくわけですから、非常に受け入れ体制が大事になってきます。いかに我々は、どういうものをここへ来て学べる環境があるのか、そういうものを自然とあわせて提供することが大事になってくるわけでありまして、その辺はあまり先を急いでいって、なかなか魅力のないものをつくっちゃいかんわけでございますので、そういうのをしっかり出していきたいと思っております。

その辺の細部にわたっては担当課の課長からも申し上げますし、また、よそから農業に定着していただくような方々についても、単なる金ではなくて、今ヒットしとるところは、やはり自分たちのものに合ったものをつくるとるわけでありまして、我々糸魚川はどうあるべきかということになりますと、農業移住者の方々については、やはり水路の管理だとか、また農道の管理などをやっていただけるような環境づくりの中で、魅力をどうやってつくっていくのか。その魅力づくりが大事だろうと思っております。

今、言われるような金でいいのか、また違ったまた魅力があるのかと、そういうのを我々は糸魚川の中で、魅力づくりを出していかなくてはいけないだろうと思っております。その辺を今、探ってる最中でございますので、その中で林業も漁業も一緒になって今やれる環境になつとるわけで

ございまして、非常に我々ありがたいなと思っております。農業だけではなくて海も、また林も、またさらにはほかのものも一緒になってやれるんでないかなと思っております。雪を生かすスキーもその中に加わるんだらうと思っとるわけでございまして、そういうものを魅力として、1つのセットメニューとして出していかなくちゃいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

ぜひ第1次産業を盛り上げていただきたいなと、こう思っておりますし。

長岡市がこの26年度予算で、起業・創業者に対して独自に最大1,000万円までを補助する、全国初だそうです。若者層の定住、市外からの流入を促す事業、これは農林水産業が入ってるかどうかわかりませんが、そういうのも含めてやっていただきたいし、建設産業常任委員会で行かしてもらった徳島県の神山町、これもIT企業がどんどん入ってきてる、またふえとらしいですよ。やっぱり誰かが企業化すれば、またどんどんどんどん入ってきていただいていると。若者がどんどんどんどんふえてると、転出より転入のほうがどんどんふえてる。それでまたその神山町は、今度は農林業の活性化も含めて、やっぱりそれにつながって今度はきてるということなんで大切だなと、こう思っておりますので、よろしく願いしたいと思えます。

それと新エネルギービジョンで、これも3年ばかり前に私も一般質問させてもらったんですが、やっとビジョン案が出てきたと。ちょっと遅過ぎると思うんですが、その辺、コンサルに委託して任してきたんでしょうけど、中身を見ると、これ行政職員でもできるんじゃないですか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

コンサルにも頼んだ部分もございまして、市の職員もかかわって一緒にビジョンをつくってきたというものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

その中で、今、第1次産業に結びつけてあったんですが、耕作放棄地にソーラーパネル、田んぼの上、畑の上にソーラーパネルをやって、いろいろなところで今やってるんですが、また、今、筑波では角度を変えて日の当たる太陽ソーラーパネルもあるそうなんです。田んぼもつくれる、稲もかなりのパーセントでできてるといふこともあるんで、お金もかかりますが、そういう実験、大々的にやるのではなく、やっぱり小規模でもやっていただけるような形っていうのも必要だなと、こう思っておりますし、第1次産業がやるのではなく、やっぱり学校を含めて、中学生がいろいろ、

小学生がいいんか、小水力も含めてそういうのもぜひやっていただきたいなど、こう思っておりますし。

私は日本海があるんで波力発電、今、コンパクトなものも出ておりますし、この中には波力発電ないですが、かなり今進んできてるらしいんです。小さいコンパクトのでブイをやって波力発電、日本海の荒波あんこうでないですけど、それぐらいこの荒波で漁業できないとかいうのがありますし、その威力を使って、太陽光の20倍から30倍だそうです、風力の5倍から10倍。波力発電、私は必要だと思うんです。ぜひそれも含めてやっていただきたいなど、こう思ってる。

それと雪室、今、いろいろなところで、東山ファームや地域振興局も含めて簡易な雪室をやってますが、それも必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

雪室等については先ほど議員もおっしゃられたとおり、地域振興局のほうでいろいろ今、実験をやってる最中でございます。その辺のところの結果を見る中で、やはり農産物や何かに生かせるかどうかという判断も、していかなきゃいけないなというふうには思っております。

波力につきましては、ちょっと今のところビジョンには載っておりませんが、その辺のところの技術革新がなされて、実際に実用化ができるようであれば、その辺のところはまた計画として、見直していく必要も出てくるのかなというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

五十嵐議員。

19番（五十嵐健一郎君）

波力発電は三井造船を筆頭に2015年、新世代の小型パワーブイ、NEDOも一緒になってやってるのがありますので、ぜひそういうのも研究していただきたいと思っておりますし、いろいろな本当のジオエネルギー、そこら中に、糸魚川全体にあるんで、ここに書かれてるビジョンだけでなく、違うのも本当に研究していただきたいなど、こう思っておりますので、よろしく願い申し上げます、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでございました。

午後4時21分 延会

+

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+

+

+